



災害に強い安心・安全なまちづくり

総 合 防 災 マップ



防災マップの使い方

はじめに

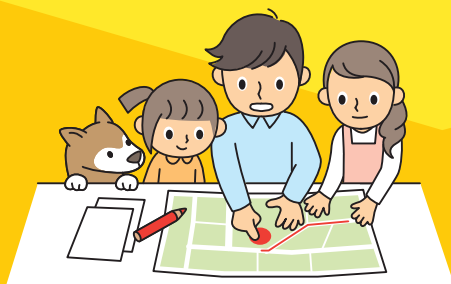
防災マップとは、洪水・津波・土砂災害などの自然災害の被害履歴に基づき、想定される災害リスクをわかりやすく表現した地図です。防災マップを活用し平時より防災意識を養うことが必要です。

ステップ 1

地域の 危険な区域を 確認しましょう



各種防災マップから、お住まいの地域ごとにどのような危険性があるか確認しましょう。大雨・台風時にはどの河川の氾濫により浸水するか、地震時には土砂崩れの影響を受けるおそれがあるかなどの確認が必要です。



避難経路や 避難方法の 確認をしましょう

ステップ 2

災害発生に備え、避難経路や避難方法を予め確認しておくのがよいでしょう。災害の状況やあなたの置かれた状況によって、命を守るための避難行動（避難タイミングと避難先）は異なります。大雨・台風、地震等の災害ごとに命を守るための避難行動を確認しましょう。また、実際に避難経路を歩いて、いざというときにスムーズに避難できるようにしましょう。

ステップ 3

命を守るために 日頃からの備えを 確認しましょう



災害時には様々な情報が発信されます。いざというときにすぐ行動できるよう、掲載している情報や、マイタイムラインシート(P2～3参照)を活用し、日頃から備えておきましょう。

索引

防災情報・
避難のタイミング

1

くまもと
マイタイムラインシート

2 3

住まいの防災対策&
チェック

4

非常時持ち出し品の
準備&チェック

5

避難行動判定フロー

6

洪水・土砂

7

風水害・台風

8 9

地震

10

揺れやすさMAP

11

自主防災組織

12

避難所の利用について

13

避難所一覧

14

南小国町全図
MAP1～13

15

16 ～ 41

連絡先・情報の入手

緊急時の連絡先

消防・救急は

119番

警察は

110番

名 称	電話番号
南小国町役場	0967-42-1111
消防北部分署	0967-46-4411
小国警察署	0967-46-2110
九州電力日田配電事業所	0800-777-9427
NTT(電話サービスの故障)	113

災害伝言ダイヤルの使い方

伝言を録音する

171の後に**1**を押し、自宅の電話番号を市外局番から入力してください。

伝言を聞く

171の後に**2**を押し、自宅の電話番号を市外局番から入力してください。

パソコン・スマートフォンからは **WEB171** で被災地にいる人の安否確認を行うことができます。

※各電話会社では、大規模な災害発生時に災害用伝言ダイヤルなどを利用できます。事前に利用方法を確認しておきましょう。

防災情報の入手

熊本県防災情報メールサービス

県内の防災情報をメールで受け取ることができます。(登録無料)



熊本県統合型防災情報システム

県内の河川水位、潮位、土砂災害の警戒情報を確認できます。



南小国町公式LINE

ぜひ、LINEの「友だち追加」をお願いいたします。



緊急速報メール

「緊急速報メール」で緊急情報を配信します

「緊急速報メール(エリアメール)」とは、避難指示などの緊急情報を町内にいる人の携帯電話(NTTドコモ、au、ソフトバンクなど)へ一斉にメールを配信するものです。



- 配信する情報は、避難指示などの緊急かつ重要な情報です。
- 携帯電話を利用する人の費用負担や事前のメールアドレス登録は必要ありません。

※機種により「緊急速報メール」を受信できない場合や受信設定が必要となる場合がありますので、くわしくは、各携帯電話会社へお問い合わせください。

無断で複写・転載することをご遠慮ください。著作権者に無断で本誌の全部、または一部を複製及び転載することは、著作権法により禁止されています。

「この地図は、南小国町長の承認を得て、同町発行の管内基本図を使用し、調製したものである。(承認番号)南建発第940号」

「測量法に基づく国土地理院長承認(使用)R 5JHs 167-380号」「測量法に基づく国土地理院長承認(使用)R 5JHs 168-165号」

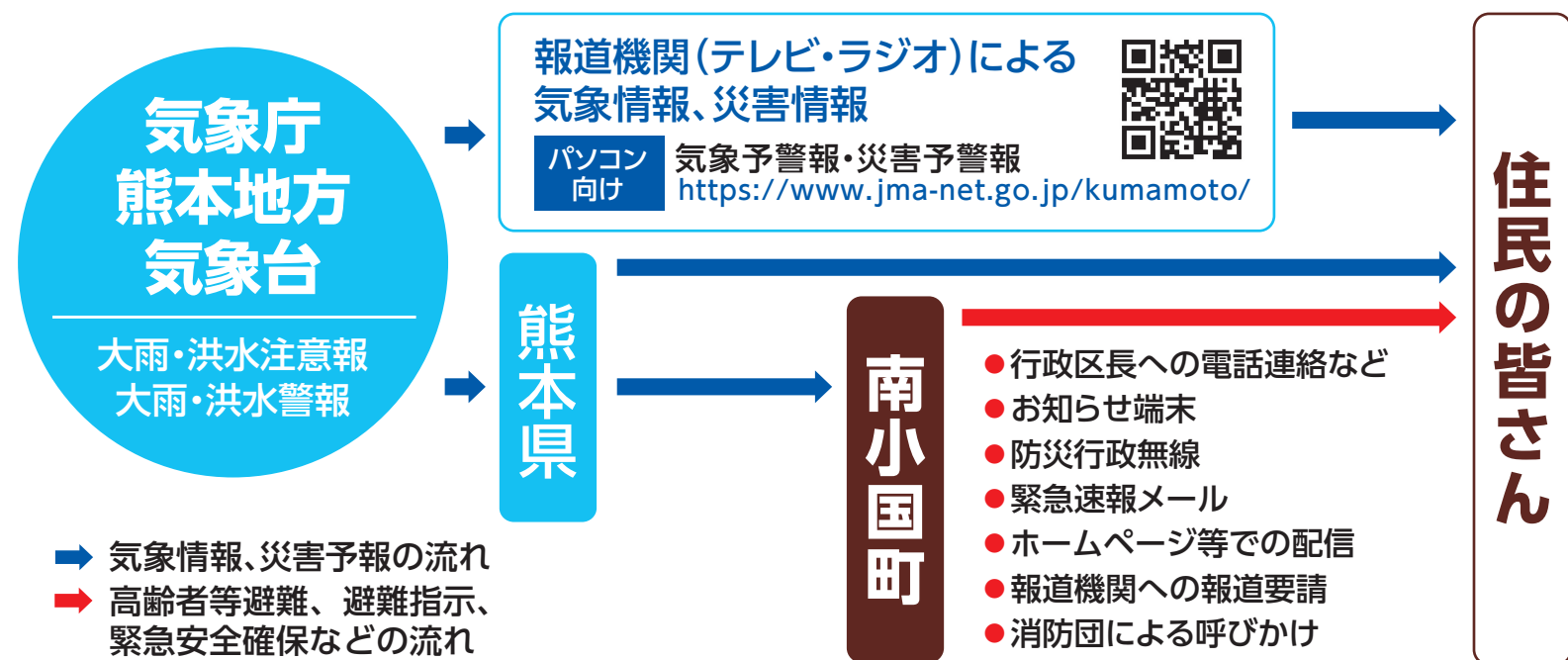


防災情報・避難のタイミング

町では、皆さんの生命に危険が及ぶ可能性があると判断した場合、予防的避難、警戒レベル3（高齢者等避難）から警戒レベル5（緊急安全確保）を発令し、皆さんに避難を促します。
避難指示などを発令するときは、さまざまな状況を総合的に判断して発令します。

気象情報・防災情報などの流れ

災害に関する注意報や警報が発表されたら、町からの情報に注意してください。



警戒レベルと避難のタイミング

警戒レベル	状況	住民が取るべき行動	行動を促す情報	防災気象情報 (警戒レベル相当)
5 ^{※1}	災害発生 又は切迫	命の危険 直ちに安全確保！	緊急安全確保 [市町村発令]	大雨特別警報 はんらん 氾濫発生情報 [暴風特別警報 ^{※2}]
<警戒レベル4までに必ず避難！>				
4	災害の おそれ高い	危険な場所から全員避難	避難指示 [市町村発令]	土砂災害警戒情報 はんらん 氾濫危険情報 高潮警報・特別警報
3	災害の おそれあり	危険な場所から高齢者等は避難 ●避難に時間のかかる要配慮者（高齢者・障がい者・乳幼児等）とその支援者は避難 ●高齢者等以外の人も危険を感じたら自主的に避難	高齢者等避難 [市町村発令]	大雨警報 洪水警報 はんらん 氾濫警戒情報 高潮注意報（警報の可能性） [暴風警報 ^{※2}]
2	気象状況悪化	自らの避難行動を確認	大雨注意報 洪水注意報 高潮注意報 [気象台発表]	はんらん 氾濫注意情報 [強風注意報 ^{※2}]
1	今後気象状況 悪化のおそれ	災害への心構えを高める	早期注意情報 （警報級の可能性） [気象台発表]	

※ 1 警戒レベル5は市町村が災害の状況を確実に把握できるわけではないことから、必ず発令される情報ではありません。

※ 2 暴風特別警報、暴風警報、強風注意報については、参考として記載している。

※ 注 各種情報は、警戒レベル1～5の順番で発表されるとは限りません。

くまもとマイタイムラインシート



家族構成	人(一緒に避難: 人)	自宅の災害リスク
------	-------------	----------

	避難先の名称(施設など)	移動時間	対象とする災害(○を付ける)							
			洪水	内水	土砂	高潮	地震	津波	火山	その他
避難先①		分								
避難先②		分								
緊急避難①		分								
緊急避難②		分								

わたしと家族の避難行動

平 時 の
備 え

警戒レベル
1

(2〜3日前)

早期注意情報 (警報級の可能性)

警戒レベル
2

(気象状況が悪くなる)

大雨・洪水注意報 / 氾濫注意情報

※高潮と火山のリスクがある人と
台風の暴風で自主避難する人

(警戒レベル3相当情報を記入)

警戒レベル
3

発表 時ごろ

大雨・洪水警報 / 氾濫警戒情報

高齢者等避難

☐ 避難スイッチ

(警戒レベル4相当情報を記入)

警戒レベル
4

見込 時ごろ

土砂災害警戒情報 / 氾濫危険情報

避難指示

☐ 避難スイッチ

【ポイント】
警戒レベル3(相当)の発表時間をメモし、夜間に警戒レベル4(相当)となる見込みの場合は、避難開始の時間を早める

警戒レベル
5

(発生後)

大雨特別警報、氾濫発生情報

緊急安全確保

★もし、避難できていない場合は、緊急的に安全を確保できる場所や建物の2階以上に移動

くまもとマイタイムラインシート

【家族の連絡先や行動】 ※避難する時に一緒にいないことも想定して書いてください。

名 前	携帯電話番号	自宅以外の主な滞在場所(職場・学校など)	電話番号	もしものときの合流場所・連絡方法など

【避難の準備】 ※あらゆる災害を想定し、日ごろから準備しておきましょう。

①避難する時の服装

	安全で動きやすい服装を一つにまとめておく(寒い時期は、防寒対策も十分に行う)
	リュックなどの両手が自由に使える持ちやすいバッグを選ぶ
	大雨で道路や歩道が浸水している場合に備えて運動靴を選ぶ(長靴は水が中に入ると歩きにくくなる)

②避難する時の持ち出し品 ※基本的な品目をチェックし、各自で追加・削除してください。

	現 金		通帳・印鑑		健康保険証		免許証
	懐中電灯／ランタン		乾電池／バッテリー		携帯電話充電器		(ウェット)ティッシュ
	飲料水		食料(保存食など)		下着・衣類		靴
	防寒着		毛布／寝袋		タオル		眼鏡・コンタクト保存液
	薬・お薬手帳		ハブラシ		生理用品		マスク
	マイナンバーカード						

③備蓄品リスト ※基本的な品目をチェックし、各自で追加してください。

	保存食		インスタント食品		飲料水		給水ポリタンク
	紙皿・紙コップ		ラップ		割り箸		ビニール袋
	(ウェット)ティッシュ		タオル		簡易トイレ		

【地震の避難行動】

平 時 の
備 え

【防災訓練】 ____月 ____日 ____ 訓練に参加

【避 難 先】 地震の避難先を次表の「避難開始」の下にそれぞれ記入

【避難準備】 上記の避難する時の「服装」「持ち出し品」「備蓄品」を準備

いつ起きるか
わからない

地震発生(強い揺れ)

発生後

地震活動
に備える

★3つの安全確保行動(まず低く・頭を守り・動かない)

・一緒にいる人の安否確認

<自宅が損壊した(損壊するおそれがある)場合>

◎避難開始

避難先: _____ へ(_____ 分)

住まいの防災対策&チェック

事前に準備出来ているか、チェック☑しましょう。

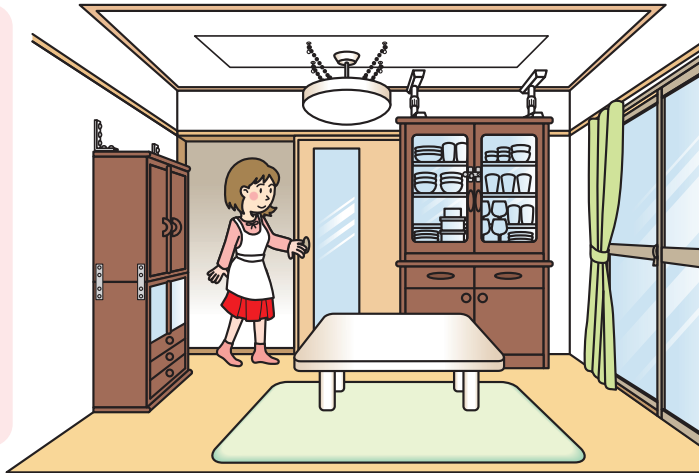
家の中の安全対策

□ 家の中に逃げ場としての安全な空間をつくる

部屋がいくつもある場合は、人の出入りが少ない部屋に家具をまとめて置く。無理な場合は、少しでも安全なスペースができるよう配置換えする。

□ 家具の転倒を防ぐ

家具と壁や柱の間に遊びがあると倒れやすい。家具の下に小さな板などを差し込んで、壁や柱によりかかるように固定する。また、金具や固定器具を使って転倒防止策を万全に。



□ 安全に避難するため、出入口や通路にものを置かない

玄関などの出入口までの通路に、家具など倒れやすいものを置かない。また、玄関にいろいろなものを置くと、いざというときに、出入口をふさいでしまうことも。

□ 寝室、子どもや高齢者のいる部屋には家具を置かない

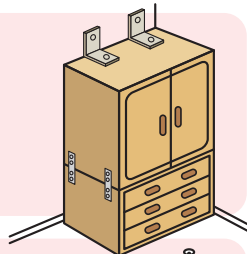
就寝中に地震に襲われると危険。子どもやお年寄り、病人などは逃げ遅れる可能性がある。



家具の転倒、落下を防ぐポイント

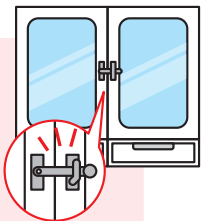
□ タンス・本棚

L字金具や支え棒などで固定する。二段重ねの場合はつなぎ目を金具でしっかり連結しておく。



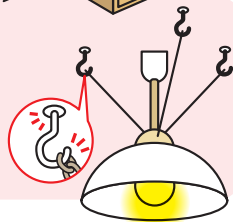
□ 食器棚

L字金具などで固定し、棚板には滑りにくい材質のシートやふきんなどを敷く。重い食器は下の方に置く。扉が開かないように止め金具をつける。



□ 照明

チェーンと金具を使って数か所止める。蛍光灯は蛍光管の両端を耐熱テープで止めておく。



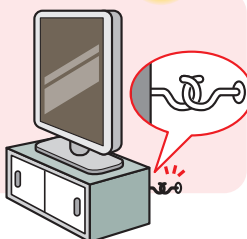
□ 冷蔵庫

扉と扉の間に針金などを巻いて、金具で壁に固定する。



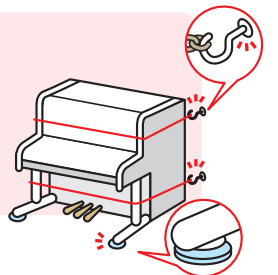
□ テレビ

できるだけ低い位置に固定して置く(家具の上はさける)。



□ ピアノ

本体にナイロンテープなどを巻きつけ、取りつけた金具などで固定する。脚には、すべり止めをつける。



家の周囲の安全対策

□ 屋根

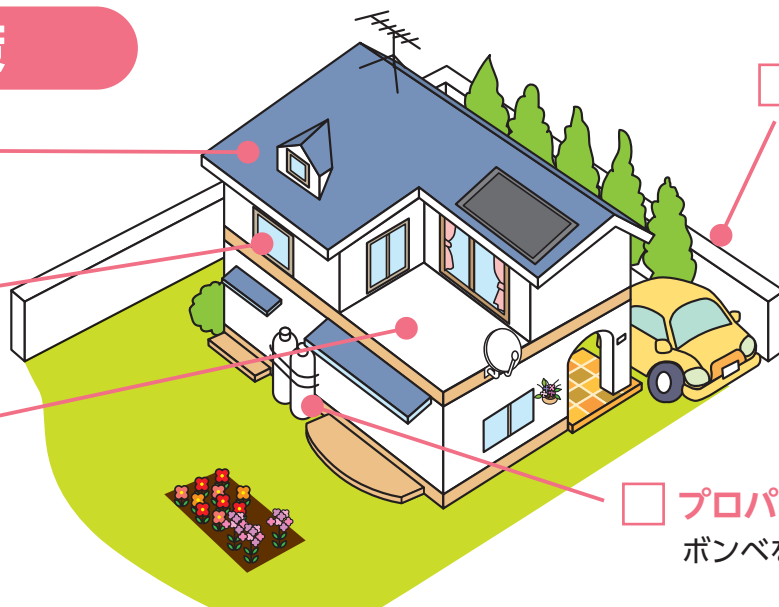
不安定な屋根のアンテナや、屋根瓦は補強しておく。

□ 窓ガラス

飛散防止フィルムをはる。

□ ベランダ

植木鉢などの整理整頓を。落ちる危険がある場所には何も置かない。



□ ブロック塀・門柱

土中にしっかりと基礎部分がないもの、鉄筋が入っていないものは危険なので補強する。ひび割れや鉄筋のさびも修理する。

□ プロパンガス

ボンベを鎖で固定しておく。

非常時持ち出し品の準備&チェック

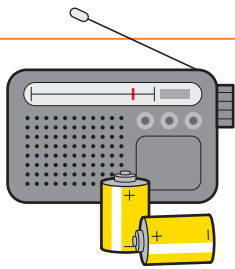
いざというときすぐに持ち出せるように、日ごろから準備・点検しておきましょう。

事前に準備出来ているか、チェック☑しましょう。

非常時持ち出し品(例)

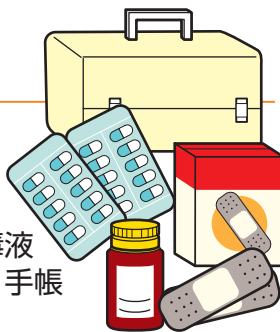
携帯ラジオ

- ☐ ラジオ
- ☐ 電池
(多めに用意)



救急医療品

- ☐ 常備薬
- ☐ 傷薬
- ☐ 風邪薬
- ☐ 鎮痛剤
- ☐ 絆創膏
- ☐ 消毒液
- ☐ 包帯
- ☐ 胃腸薬
- ☐ マスク
- ☐ 手指消毒液
- ☐ おくすり手帳
- ☐ 体温計



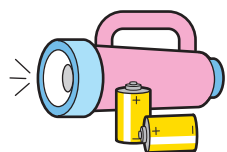
貴重品

- ☐ 現金
- ☐ 印鑑
- ☐ 健康保険証
- ☐ 預金通帳
- ☐ 免許証
- ☐ 権利証書



懐中電灯

- ☐ 懐中電灯
(できれば一人にひとつ)
- ☐ 電池
(多めに用意)



非常食品等 火を通さなくて食べられるもの、食器など

- ☐ 非常用食品
- ☐ 缶切り
- ☐ 紙皿
- ☐ 缶詰
- ☐ ミネラルウォーター
- ☐ 栓抜き
- ☐ 紙コップ
- ☐ はし、スプーン等
- ☐ 水筒



その他

- ☐ 衣類(下着・上着など)
- ☐ 生理用品
- ☐ ウェットティッシュ
- ☐ ヘルメット
- ☐ ラップフィルム
(止血や食器にかぶせて使う)
- ☐ 防災マップ(本書)
- ☐ タオル
- ☐ 粉・液体ミルク
- ☐ 離乳食
- ☐ スリッパ
- ☐ 紙おむつ
- ☐ ライター
- ☐ 携帯電話の充電器
- ☐ ナップサック(持ち出し品が入るもの)
- ☐ レスキューシート
- ☐ ティッシュ
- ☐ カップ
- ☐ ビニール袋
- ☐ 携帯カイロ

非常時用備蓄品(例)

災害復旧までの数日間(最低3日)を生活できるようにチェック☑しましょう。

飲料水

- ☐ 飲料水としてペットボトルや缶入りのミネラルウォーター
(1人1日3リットルを目安に)
- ☐ 貯水した防災タンクなど



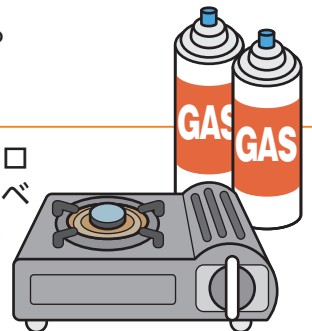
非常食品

- ☐ お米(缶詰・レトルト・アルファ米も便利)
- ☐ 缶詰・レトルト食品
- ☐ カップ麺・インスタントみそ汁など
- ☐ 梅干し・調味料など
- ☐ ドライフーズ・チョコレート・アメ(菓子類など)



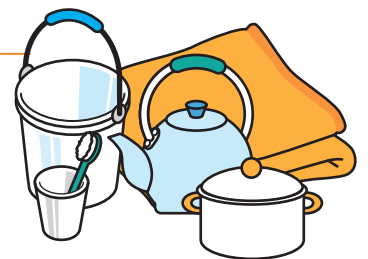
燃料

- ☐ 卓上コンロ
- ☐ ガスボンベ
- ☐ 固形燃料



その他

- ☐ 生活用水(風呂・洗濯機などに貯水)
- ☐ 毛布・寝袋・洗面用具・ドライシャンプーなど
- ☐ 調理器具(なべ・やかんなど)
- ☐ バケツ・各種アウトドア用品など



定期
点検

非常時持ち出し品は定期的に点検を!

いざというときに支障がないように、食品類の賞味期限や持ち出し用品の不備を定期的に点検しましょう。

避難生活が長引くときに便利なもの

携帯トイレ、使い捨てカイロ、裁縫セット、ガムテープ、地図、さし、筆記用具(マジックなど)、スコップなど。



熊本地震で役に立ったもの

ポリタンク、ホイッスル、予備の眼鏡・補聴器、ブルーシート、新聞紙、補助用具としてロープ、スコップ、ボールやハンマー、のこぎり、車のジャッキなど。

非常時持ち出し品は、使用するとき支障のないように、定期的に点検しておきましょう。とくに食品や飲料水の賞味期限はまめにチェックし、賞味期限がせまったものから順に入れ替えておきましょう。

避難行動判定フロー

平時に
確認

「自らの命は自らが守る」意識を持ち、
自宅の災害リスクととるべき行動を確認しましょう。



高齢者等避難(警戒レベル3) や **避難指示(警戒レベル4)** が出たら、
危険な場所から速やかに避難しましょう。



避難とは難を避けることです。
安全な場所にいる人は、避難場所に行く必要はありません。



避難先は小中学校・公民館だけではありません。
安全な親戚・知人宅やホテル・旅館に避難することも考えましょう。

避難行動判定フロー

あなたがとるべき避難行動は？必ず取り組みましょう

※避難の際は、自宅の火の元・戸締りの確認をしましょう。

ハザードマップ※で自分の家がどこにあるか
確認し、印をつけてみましょう。

※ハザードマップは土砂災害や浸水が発生するおそれの高い区域を着色した
地図です。着色されていないところで
も災害が起こる可能性があります。

はい

家がある場所に色が塗られていますか？

いいえ

色が塗られていなくても、周り比べて低い土地や崖の
そばなどにお住まいの方は、市からの避難情報を参考に、
必要に応じて避難してください。

はい

災害の危険があるので、
原則として自宅の外に避難が必要です。

例外

○浸水の危険があっても

- ①洪水により家屋が倒壊又は崩落してしまうおそれの
高い区域の外側である
- ②浸水する深さよりも高いところにいる
- ③浸水しても水がひくまで我慢できる、水・食糧などの
備えが十分にある場合は自宅に留まり安全確保を
することも可能です。

○土砂災害の危険があっても、十分堅牢なマ
ンション等の上層階に住んでいる場合は自
宅に留まり安全確保をすることも可能です。

ご自身または一緒に避難する方は
避難に時間がかかりますか？

いいえ

はい

安全な場所に住んでいて身を寄せられる
親戚や知人はいますか？

はい

**高齢者等避難(警戒レベ
ル3)**が出たら、**安全な親
戚や知人宅に避難**しま
しょう(日頃から相談して
おきましょう)

いいえ

**高齢者等避難(警戒レベ
ル3)**が出たら、町が指定
している**指定緊急避難
場所など安全な場所**に
避難しましょう

安全な場所に住んでいて身を寄せられる
親戚や知人はいますか？

はい

**避難指示(警戒レベル
4)**が出たら、**安全な親戚
や知人宅に避難**しまし
ょう(日頃から相談してお
きましょう)

いいえ

**避難指示(警戒レベル
4)**が出たら、町が指定し
ている**指定緊急避難場
所など安全な場所**に**避
難**しましょう

洪水・土砂

大雨などにより、川の水量の増加や地中にしみこんだ水分などが起因となり、大きな災害に発展する場合があります。

事前にその災害のメカニズムを理解し、身近に起こりえる災害に対応しましょう。

川の氾濫

雨量の増加によってもたらされる氾濫には、川から水があふれたり堤防が決壊して起こる「**外水氾濫**」と、街中の排水が間に合わず、地下水路などからあふれ出す「**内水氾濫**」の2タイプがあります。

外水氾濫

大雨の水が川に集まり、川の水かさが増し堤防を越える。あるいは堤防を決壊させて川の水が外にあふれておきる。氾濫が起きると一気に水かさが増しますので、最大の注意が必要。



内水氾濫

その場所に降った雨水や、周りから流れ込んできた水がはけきれずに溜まっておきる。川の水位が何mに達すれば警報を出すなどの対応が難しいため、注意が必要。



土砂災害

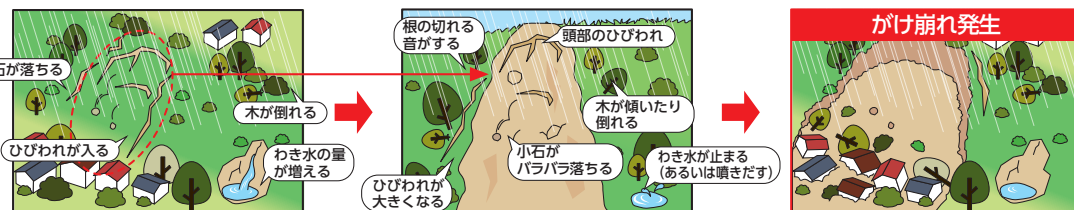
土砂災害警戒情報は、大雨警報(土砂災害)が発表されている状況で、土砂災害発生の危険度がさらに高まったときに熊本県と熊本地方気象台が共同で発表しています。

土砂災害の危険がある地域にお住まいの方は、特に早めの避難が重要ですので、土砂災害警戒情報を避難の参考にしてください。

土砂災害警戒情報が発表されていなくても、下の図のような土砂災害の前兆に気づいた場合には、直ちに周りの人と安全な場所に避難し、南小国町役場までご連絡ください。

がけ崩れ

地中にしみ込んだ水分が土の抵抗力を弱め、雨や地震などの影響によって急激に斜面が崩れ落ちることをいいます。がけ崩れは突然起きるため、人家の近くで起きると逃げ遅れる人も多く、被害者の割合も高くなっています。



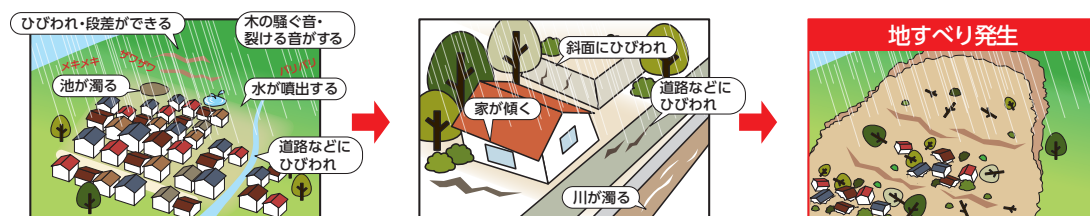
土石流

山腹・川底の石や土砂が長雨や集中豪雨などによって一気に下流へと押し流されることをいいます。その流れの速さは規模によって異なりますが、時速20～40kmという速度で一瞬のうちに人家や畑などを壊滅させてしまいます。



地すべり

斜面の一部あるいは全部が、地下水の影響と重力によってゆっくりと斜面下方に移動する現象のことをいいます。一般的に移動土塊量が大きいため、甚大な被害を及ぼします。また一旦動き出すと、これを完全に停止させることは非常に困難です。



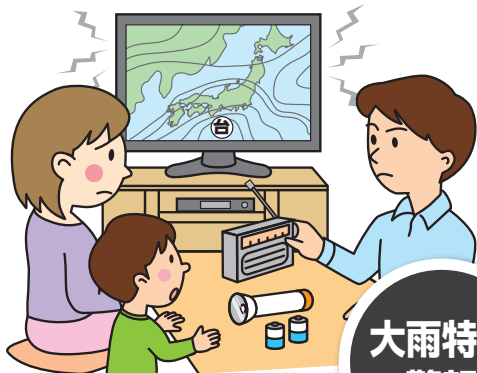
※上記は一般的な前兆現象です。すべての場合において必ず起きるというものではありません。ふだんと違い、少しでも身に危険を感じたら避難するようにしましょう。

風水害・台風

大雨や強風はわたしたちに何度も大きな災害をもたらしています。
普段から気象情報に十分注意し、避難の際もみんなで協力しましょう。

大雨情報をキャッチ！ こんなときのわが家の安全対策

まずは、確実な情報が大事。
その次に迅速な対応



大雨 注意報

大雨による土砂災害や浸水害が発生する
おそれがあると予想したときに発表

大雨警報

大雨による重大な土砂災害や浸水害が発生するおそれ
があると予想したときに発表
特に警戒すべき事項を表題に明示して「大雨警報(土砂災害)」、
「大雨警報(浸水害)」又は「大雨警報(土砂災害、浸水害)」のように発表

土砂災害 警戒情報

降り続く大雨のため、土砂災害警戒区域等で命に危険が及ぶ土砂災害が
いつ発生してもおかしくない非常に危険な状況であると予想したときに発表

危険な場所から全員避難!!

大雨特別 警報

台風や集中豪雨により数十年に一度の降雨量となる大雨が予想される場合に発表
特に警戒すべき事項を表題に明示して「大雨特別警報(土砂災害)」、
「大雨特別警報(浸水害)」又は「大雨特別警報(土砂災害、浸水害)」のように発表
雨が止んでも重大な土砂災害等のおそれが残っている場合には発表を継続

記録的短時間大雨情報とは

数年に一度程度しか発生しないような短時間の大雨を、観測したり、解析したりしたときに、各地の
気象台が発表します。熊本県区域の発表基準は、1時間雨量110mmとなっています。

雨の強さと 降り方

時間雨量 (mm)	10 以上～20 未満	20 以上～30 未満	30 以上～50 未満	50 以上～80 未満	80 以上～
予報用語	やや強い雨	強い雨	激しい雨	非常に激しい雨	猛烈な雨
人の受ける イメージ	ザーザーと降る。	どしゃ降り。	バケツをひっくり返した ように降る。	滝のように降る。 (ゴーゴーと降り続く)	息苦しくなるような圧迫 感がある。恐怖を感じる。

風の強さと 吹き方

平均風速 (m/秒)	10 以上～15 未満	15 以上～20 未満	20 以上～25 未満	25 以上～30 未満	30 以上～
予報用語	やや強い風	強い風	非常に強い風		猛烈な風
人への影響	風に向かって歩きにくく なる。傘がさせない。	風に向かって歩けなくなり、転倒す る人も出る。高所での作業はきわ めて危険。	何かにつかまっていなくて立って られない。飛来物によって負傷するお それがある。		屋外での行動は極めて危険。

台風の 大きさと 強さ

台風は、毎年のように日本に襲来し、きわめて大きな災害をもたらすことがあります。
台風の接近が予想される際は、台風情報に十分注意し、被害のないように備えることが必要です。

大きさ	風速 15m/秒 以上の半径	強さ	最大風速
大型(大きい)	500km 以上～800km 未満	強い	33m/秒 以上～44m/秒 未満
超大型(非常に大きい)	800km 以上	非常に強い	44m/秒 以上～54m/秒 未満
		猛烈な	54m/秒 以上

集中豪雨

集中豪雨は、限られた地域に、突発的に短時間に集中して降る豪雨で、梅雨の終わりごろによく発生し
ます。発生の予測は困難で、中小河川の氾濫、土砂崩れ、がけ崩れなどによる大きな被害をもたらすことが
ありますので、気象情報に十分注意し、万全の対策をとることが必要です。

- ラジオやテレビなどの気象情報に注意する。
- 早く帰宅し、家族と連絡を取り、非常時に備える。
- 町や防災関係機関の広報をよく聞いておく。
- 飲料水や食料を数日分確保しておく。
- 停電に備え懐中電灯や携帯ラジオを用意する。
- 浸水に備えて家財道具は高い場所へ移動する。
- 非常時持出品を準備しておく。
- 危険な地域では、いつでも避難できるよう準備をする。

つねに
気象情報には、
注意して
おきましょう!



特別警報

警報の発表基準をはるかに超える大雨や大津波等が予想され、重大な災害の起こるおそれが著しく高まっている場合、気象庁は「特別警報」を発表し最大級の警戒を呼びかけます。

気象等に関する特別警報の発表基準

現象の種類	基準
大雨	台風や集中豪雨により数十年に一度の降雨量となる大雨が予想される場合
暴風	暴風が吹くと予想される場合
高潮	数十年に一度の強度の台風や同程度の温帯低気圧により 高潮になると予想される場合
波浪	高波になると予想される場合
暴風雪	数十年に一度の強度の台風と同程度の温帯低気圧により雪を伴う暴風が吹くと予想される場合
大雪	数十年に一度の降雪量となる大雪が予想される場合

※過去の災害事例に照らして、指数(土壌雨量指数、表面雨量指数、流域雨量指数)、積雪量、台風の中心気圧、最大風速などに関する客観的な指標を設け、これらの実況および予想に基づいて気象庁が判断します。

地震(地震動)・火山・津波に関する特別警報の発表基準

現象の種類	基準
地震(地震動)	震度6弱以上又は長周期地震動階級4の大きさの地震動が予想される場合 (緊急地震速報(震度6弱以上又は長周期地震動階級4)を特別警報に位置づける)
火山噴火	居住地域に重大な被害を及ぼす噴火が予想される場合 (噴火警報(噴火警戒レベル4以上)及び噴火警報(居住地域)を特別警報に位置づける)
津波	高いところで3メートルを超える津波が予想される場合(大津波警報を特別警報に位置づける)

※これらの特別警報は、名称に「特別警報」は用いず、従来どおりの名称で発表します。

※地震動特別警報の基準における長周期地震動階級とは、気象庁長周期地震動階級表(令和2年気象庁告示第6号)で定めるものをいう。

特別警報が発表されたら

- ❗ 尋常でない大雨や暴風等が予想されています。
- ❗ 重大な災害が起こる可能性が非常に高まっています。
- ❗ ただちに身を守るために最善を尽くしてください。

顕著な大雨に関する気象情報

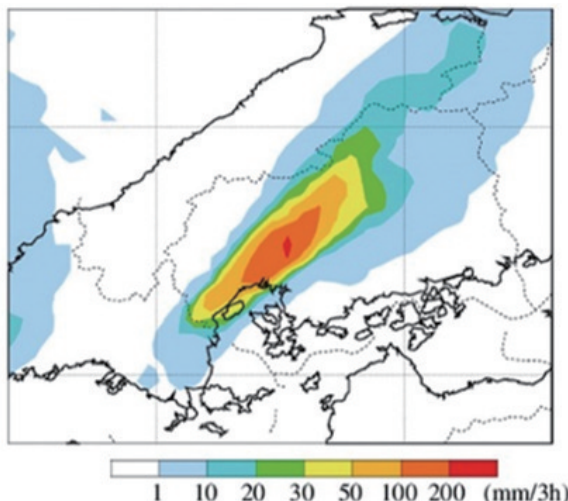
線状降水帯の発表基準

「顕著な大雨に関する気象情報」の発表基準を満たすような線状降水帯による大雨の可能性が高いことが予想された場合に、半日程度前から、気象情報において、「線状降水帯」というキーワードを使って呼びかけます。

線状降水帯とは

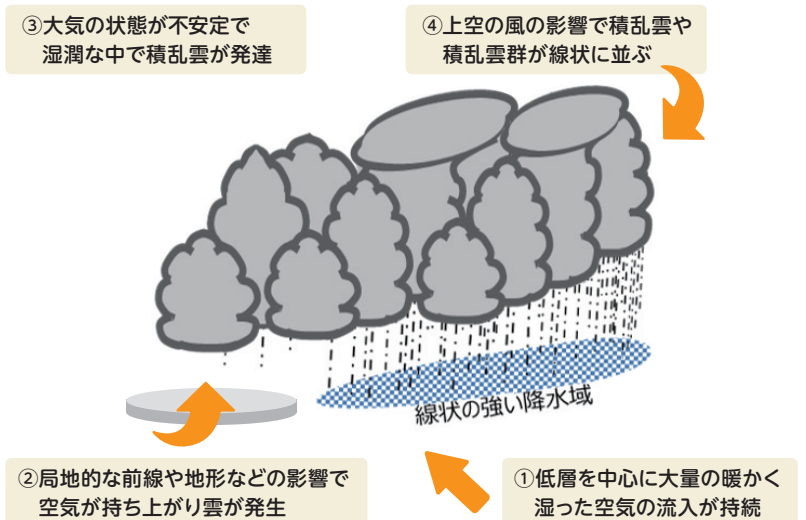
次々と発生する発達した雨雲(積乱雲)が列をなした、組織化した積乱雲群によって、数時間にわたってほぼ同じ場所を通過または停滞することで作り出される、線状に伸びる長さ50～300km程度、幅20～50km程度の強い降水をともし雨域を線状降水帯といいます。毎年のように線状降水帯による顕著な大雨が発生し、数多くの甚大な災害が生じています。

線状降水帯の例(平成26年8月の広島県の大雨)



気象庁の解析雨量から作成した、平成26年8月20日4時の前3時間積算降水量の分布

線状降水帯の代表的な発生メカニズムの模式図



地震

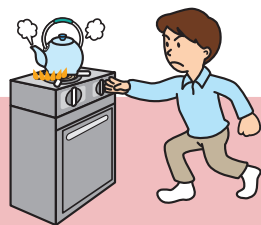
地震発生時の時間経過別行動マニュアル

地震発生

1~2分

地震があったら

- ★丈夫な机やテーブルなどの下へもぐり、机などの脚をしっかりと握りましょう。
- また、頭を座布団などで保護して、揺れがおさまるのを待ちましょう。
- 突然大きな揺れに襲われたときは、まずは自分の身を安全に守れるように心がけましょう。
- 棚や棚に乘せてあるもの、テレビなどが落ちてきたりするので、離れて揺れがおさまるのを待ちましょう。
- あわてて戸外に飛び出さないようにしましょう。



揺れがおさまったら

- ★まずは周囲を確認。身の安全を確保しましょう。
- 火元を確認 ガスの元栓、コンセント
- あわてて行動すると、転倒した家具類、飛び散ったガラスの破片等でケガをする恐れがあります。
- 小さな揺れの時、又は揺れがおさまった後に、窓や戸を開け、出口を確保しましょう。



3分

みんなの無事を確認 火災の発生を防ぐ

隣近所に
声をかけよう

- 避難行動要配慮者の安全確保 隣近所で助け合う
- 行方不明者はいないか ●ケガ人はいないか

出火防止
初期消火

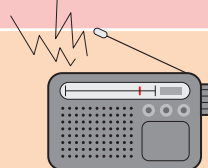
- 初期消火 消火器を使う バケツリレー 風呂の水はため置きをしておく
- 漏電・ガス漏れに注意 ●電気のブレーカーを下ろす・ガスの元栓を閉める ●余震に注意



5分

ラジオなどで正しい情報を得る

- 救出・救護を
- 町や防災機関、自主防災組織の情報を確認
- デマにまどわされないように ●電話は緊急連絡を優先する



10分

協力して消火活動、救出・救護活動

- 水、食料は蓄えているものでまかなう 3日間の飲料水と食料の備蓄をしておく
- 災害・被害情報の収集 ●無理はやめよう
- 助け合いの心が大切 ●壊れた家に入らない



数時間

3日



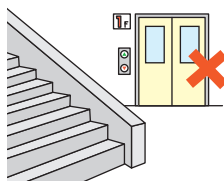
屋内にいた場合

家の中

- 頭を保護し、丈夫な机の下など安全な場所に避難
- あわてて外に飛び出さず、無理に火を消そうとしない(落下物や車が危険)
- 揺れがおさまってから、あわてず火の始末

集合住宅

- ドアや窓を開けて避難口を確保する。避難にエレベーターは絶対に使わない。炎と煙に巻き込まれないように階段を使って避難する。



デパート・スーパー

- カバンなどで頭を保護しショーウィンドウや商品などから離れる。柱や壁ぎわに身を寄せ、係員の指示を聞き、落ち着いた行動をとる。

劇場・ホール

- カバンなどで頭を保護し、座席の間に身を隠し、係員の指示を聞く。
- あわてずに冷静な行動をとる。



屋外にいた場合

路上

- その場に立ち止まらず、窓ガラス、看板などの落下物から頭をカバンなどで保護して、空き地や公園などに避難する。
- 近くに空き地などがないときは、周囲の状況を冷静に判断して、建物から離れた安全性の高い場所へ移動する。
- ブロック塀や自動販売機などには近づかない。
- 倒れそうな電柱や垂れ下がった電線に注意する。

車を運転中

- ハンドルをしっかりと握り、徐々にスピードを落とし、緊急車両などの通行スペースを確保し、道路の左側に止め、エンジンを切る。
- 揺れがおさまるまで冷静に周囲の状況を確認して、カーラジオで情報を収集する。
- 避難が必要なときは、キーはつけたまま、ドアロックもしない。車検証などの貴重品を忘れずに持ち出し、徒歩で避難する。

海岸付近

- 高台へ避難し津波情報をよく聞く。
- 注意報・警報が解除されるまでは海岸に近づかない。



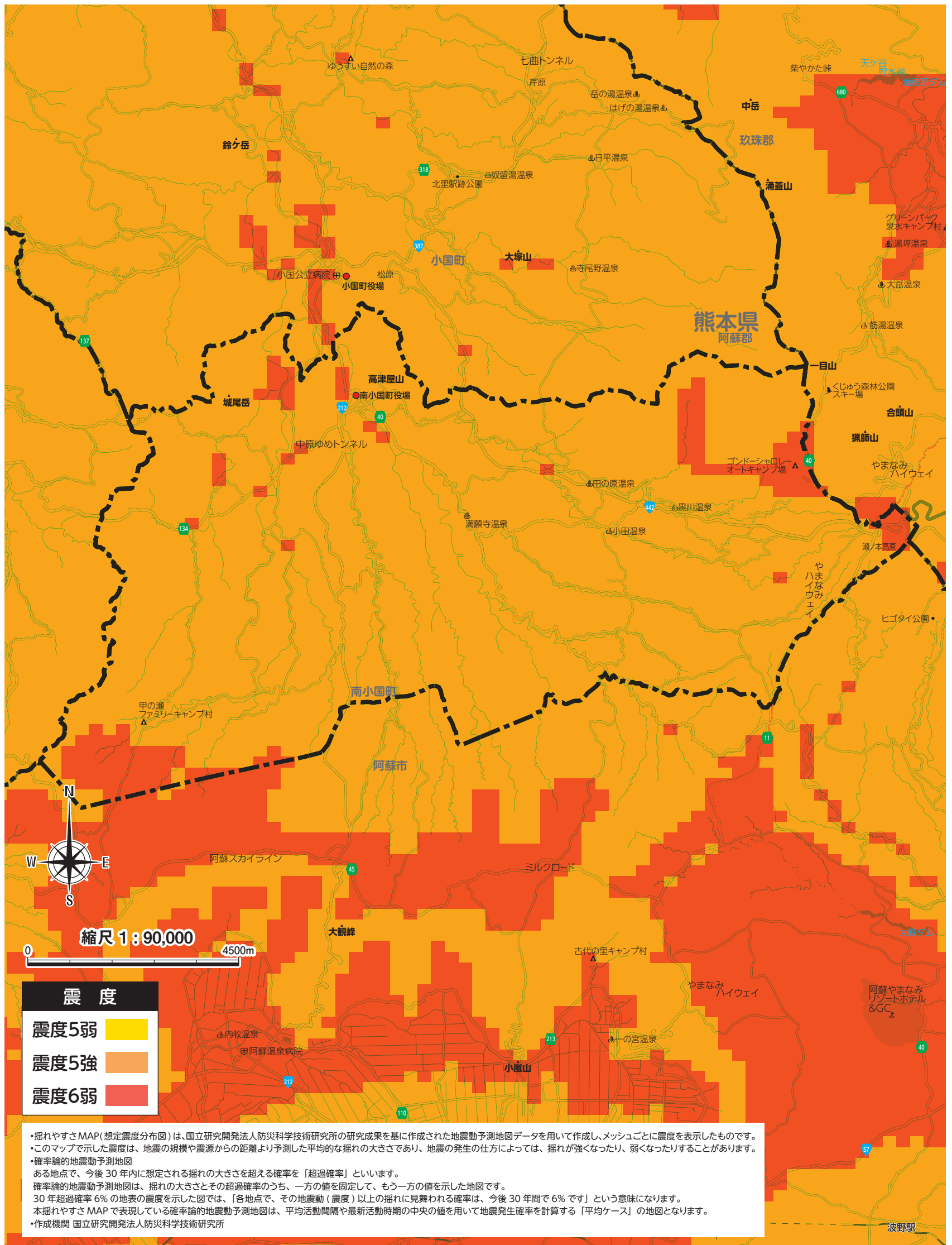
電車などの車内

- つり革や手すりに両手でしっかりとつかまる。
- 途中で止まっても、非常コックを開けて勝手に車外へ出たり、窓から飛び降りたりしない。
- 乗務員の指示に従って落ち着いた行動をとる。



揺れやすさMAP

このMAPは、2023年より今後30年間に6%の確率で一定の揺れに見舞われる計測震度の領域図になります。



自主防災組織

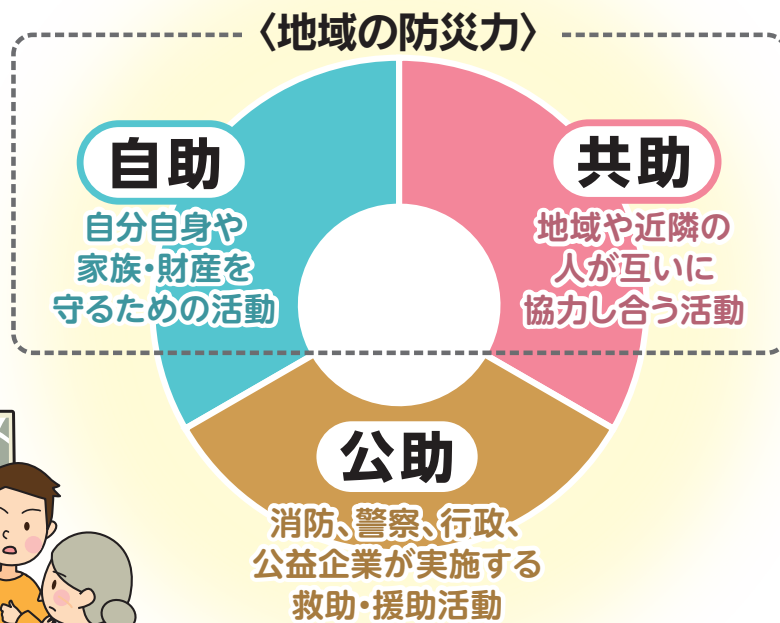
災害に強い地域をつくりませんか？

地域の防災力

災害発生時には、自助・共助・公助の連携により人的・物的被害を軽減することができます。

ひとたび大規模な災害が発生したときには、公的機関が行う活動（公助）は交通網の寸断や同時多発火災などにより十分対応できない可能性があるため、個人の力で災害に備える（自助）とともに、地域での助け合い（共助）による地域の防災力が重要となります。

災害に強い地域づくりを目指して、災害時の被害を軽減するため、「自主防災組織」活動を通じて、共助の強化、地域の防災力の強化に向けた取組を始めてみませんか？



① 自主防災組織とは？

- 災害発生時はもちろん、日頃から地域の皆さんと一緒に防災活動に取り組むための組織を「自主防災組織」と言います。
- 平常時には防災訓練や広報活動、災害時には初期消火、救出救護、集団避難、避難所への給食給水などの活動を行います。



② なぜ、自主防災組織が必要なの？

- 大規模な災害が発生した場合、消防署などの防災機関だけでは、十分な対応ができない可能性があります。このような時、地域の皆さんが一緒になって協力し、災害や避難に関する情報の伝達、避難誘導、安否確認、救出・救護活動に取り組むことで被害の軽減を図る事ができます。また、活動を迅速に進めるためには「お互いに顔の見える関係」の中で、事前に地域内で役割分担を決めておくことが有効です。より効率よく、さまざまな活動をするためにも事前の準備（＝体制づくり）が重要です。

■各班の日頃（平常時）と緊急時（災害発生時）の活動内容は概ね次のような役割になります。（例）

	本部	情報班	消火班	避難誘導班	救出救護班	給食・給水班
平常時	● 地区防災計画の作成、見直し ● 防災意識の啓発 ● 防災訓練の計画・実施・評価等	● 住民に対しての連絡体制、手段の検討 ● 情報収集・伝達訓練の実施・指導 ● 地域内の災害危険箇所の把握	● 消防団等と連携した初期消火訓練の実施 ● 消火用水の確保、確認 ● 出火防止の啓発	● 事前に避難路、避難場所を把握（予備を含む。） ● 避難誘導訓練の実施 ● 避難路の安全点検 ● ※危険箇所（がけ、ブロック塀）などの確認等 ● 避難行動要配慮者の把握、避難要領の確認	● 衛生救護知識の普及・啓発 ● 応急医薬品・救助用資機材の点検・確保 ● 衛生ノウハウ保有者の把握	● 食料、飲料水の個人備蓄についての普及啓発 ● 炊き出し訓練の実施 ● 炊き出し用資機材の確保、点検 ● 食品等の衛生・管理
緊急時	● 自主防災組織内各班の指揮（運用・統制） ● 地域住民の安否確認 ● 町及び関係機関との連携確保	● 災害情報を住民に対して正確かつ迅速に伝達 ● 地域内の被害情報を収集し本部へ報告 ● 危険箇所の把握、表示等の実施	● 初期消火活動 ● ※消防署、消防団の到着までの延焼拡大を防ぐのが基本ですので無理はしないこと!! ● 情報班と連携しての出火防止等の広報	● 本部と連携しての避難の呼びかけ ● 安全な経路を選択しての避難誘導 ● 避難行動要配慮者の避難支援 ● 避難地での安否確認 ● 安否確認による救出救護班への情報伝達	● 避難誘導班と連携しての速やかな救出 ● ※救出活動は危険を伴う場合があるため、二次災害に十分注意すること!! ● 負傷者の搬送、応急手当の救護 ● 避難所・救護所での救護活動への協力	● 食料や水、救援物資等の受入れ、配付 ● 必要に応じて炊き出し ● 炊き出し時の衛生管理

避難所の利用について

避難所では限られたスペースでの共同生活となりますので、マナーやルールを守ることが大切です。避難者同士のプライバシーを守りながら、譲り合いの心を持って助け合い、協力、配慮が必要です。

共同生活の注意点

所持品

- 避難所には多くの人が避難してこられます。トラブルにならないよう所持品に名前を書きましょう。
- 避難所の中から避難しなければならない場合があります。所持品は、1箇所にとめて、すぐに持ち出せるようにしましょう。



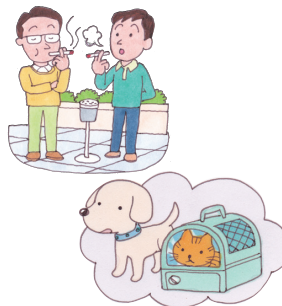
ルール

- 大災害の際は、町職員やボランティアが不足する場合があります。炊き出し、救援物資の受け取り、防犯対策、トイレ掃除など、共同生活に必要な役割は、みんなで協力しましょう。
- 水道が使えない場合は、飲み水や生活水の確保が必要です。配水ポイントのお知らせや配水車が到着するまで大切に使いましょう。
- 障がいのある人や高齢者、妊産婦などには、手助けをしましょう。
- 居住スペースは、個人の家と変わりません。要配慮者や乳幼児のいる家庭には気を配る必要がありますので、個人のプライバシーは守りましょう。
- ゴミは分別し、所定の場所へ持っていきましょう。ゴミには封をして、害虫の発生を防止しましょう。
- 避難所のトイレは多くの方が使用しますので、トイレットペーパーが詰まる可能性があります。トイレを流す際にルールがある場合は、そのルールを守りましょう。
- 避難所は完璧な居住空間ではありません。自分の身は自分で守ることを心がけ、不審者を見つけたら、警察や町職員又は、避難所の管理者、リーダーに連絡しましょう。
- 避難所から別の場所へ移動するときは、必ず避難所にいる職員及び管理者等に一声かけてください。



マナー

- 物資が支給される場合は、慌てず、列に並び、落ち着いて自分の順番を待ちましょう。列に並べない要配慮者への気配りも必要です。物資が少ない場合は、ひとり分を複数人で分ける場合もあります。
- 掃除は定期的に行い、清潔な状態を保ちましょう。室内は土足厳禁とし、布団を敷くスペースと通路を分けましょう。
- 喫煙は、火災防止や受動喫煙防止のため、所定の場所で行いましょう。
- 避難所にはペットが苦手な避難者もいます。ペット同伴の方は、飼い主が責任を持って世話をしましょう。



食中毒

- 食中毒は1年中発生します。調理・盛り付けの前、食材に触った後、トイレの後には石鹸で十分に手を洗いましょう。
- 食器、調理器具にも注意が必要です。使用後や作業が変わるたびに洗浄と消毒を行いましょう。水が使えないときは、使い捨て容器にラップを敷いて使う方法もあります。



感染症 コロナ 対策

- 避難所は集団生活の場となりますので、風邪やインフルエンザなどの感染症が流行しやすくなります。
- 予防対策としては、3密（密閉・密集・密接）を避けこまめにうがいや手洗いや手指消毒を行い、できるだけマスクを付けましょう。排泄物やおう吐物の処理には、必ず使い捨て手袋とビニール袋を使用してください。
- 発熱、下痢など体調のすぐれない方は早目に係にお知らせ下さい。



体調管理

【エコノミークラス症候群】

長時間足を動かさないでいると足の静脈に血栓（血の塊）ができ、歩き出した後などに血栓の一部が血流に運ばれて肺や脳の血管をふさいでしまう病気となります。予防対策としては、体を動かしましょう。座ったままでも足や指のつま先を動かすなど足の運動をしましょう。十分な水分をとり、脱水症状にならないようにしましょう。



【熱中症】

猛暑などで高い温度が長く続き、発汗して水分や塩分を失われる状態や湿度が高い時期に汗が蒸発しないため、体内の熱がこもったままで放出されない状態において、めまい、筋肉痛、頭痛、吐き気、失神、けいれんなどを起こす症状です。予防対策としては、水分をこまめにとりましょう。塩分もほどよくとりましょう。涼しい服装に心がけましょう。室内でも温度に注意しましょう。日陰を利用しましょう。日傘や帽子を使いましょう。



避難所一覧



指定避難所

災害の危険に伴い避難をしてきた人々が一定期間滞在する場所です。

避難対象地区	指定避難所	担当消防団	MAP番号
田 中 千光寺	千光寺集会所	第1分団1部	6-E-1
竹の熊	竹の熊集会所		2-E-5
森 園 / 黒 原 / 中 村 布 目 / 馬場 上 / 鬼 山 鬼山上	役場庁舎	第1分団2部	2-D-4
戸 無 / 黄 川 / 滝ノ口	黄川集会所		10-E-2
脇 戸	脇戸集会所	第1分団3部	2-E-3
矢津田上	矢津田上集会所	第1分団4部	2-D-3
矢津田下	矢津田下集会所		2-C-2
赤馬場	役場庁舎	機動分団	2-D-4
杉田上	山崎金次様方前	第1分団4部	2-C-4
杉田下	下杉田集会所		2-C-3
中杉田	杉田住宅集会所		2-D-3
	きよらかサ駐車場		2-D-3
新 町	新町住宅集会所	機動分団	2-D-4
上 町 / 本 町 / 下 町	上町集会所	機動分団	2-D-4
	さくら荘		2-D-4
和 田	和田公民館	第2分団1部	6-B-1
瓜 上 / 中原住宅	元気プラザ中原		6-B-2
米 山 / 米山上 落 見 / 梶の本	上中原公民館	第2分団2部	6-B-3
地藏原 / 松の木 坂の下 / 田 尻	下中原公民館	第2分団3部1班	2-B-5
陣の前 / 平 瀬	滝下公民館	第2分団3部2班	2-B-3
湯田上 / 湯田下 古 賀 / 矢田原	湯田公民館	第2分団4部	5-F-3
	湯夢プラザ		

避難対象地区	指定避難所	担当消防団	MAP番号
中湯田 / 樋の口	湯田公民館	第2分団3部3班	5-F-3
	湯夢プラザ		6-A-1
	ねむの家		
	樋の口集会所		2-A-5
荒 倉 / 動目木 手形野 / 志賀瀬	里組集会所	第3分団1部	2-E-5
志 津	南小国町公民館 満願寺分館	第3分団2部	7-A-2
立 岩	立岩集会所		11-A-1
志童子	志童子集会所	第3分団2部	6-F-2
扇	扇集会所	第3分団3部	7-B-3
星 和 / 永 山 / 薊 原	南小国町公民館 星和分館	第3分団4部	11-E-1
矢ヶ部 / 小 原	矢ヶ部集会所	第3分団4部	11-E-3
吉 原	南小国町公民館 星和分館	第3分団5部	11-E-1
小 田	小田公民館	第3分団6部	7-D-3
白 川	白川集会所	第3分団7部	8-A-4
黒 川	べっちゃん館	第3分団8部	7-F-2
	ふれあい広場		
	黒川駐在所前広場		
	黒川温泉駐車場		
瀬の本	県営駐車場	第3分団8部	8-E-3
大谷山	大谷山集会所	第3分団8部	8-C-2
田の原	田の原集会所	第3分団9部	7-D-1
高 花 / 長 迫 / 鬼 淵 陣 内 / 波居原下	南小国町公民館 波居原分館	第3分団10部	3-A-5



指定緊急避難場所

災害の危険から命を守るために緊急的に避難をする場所です。

避難対象地区	指定緊急避難場所	担当消防団	MAP番号
田 中 / 千 光 寺 / 竹 の 熊 森 園 / 黒 原 / 中 村 布 目 / 馬 場 上 / 鬼 山 鬼 山 上 / 戸 無 / 黄 川 滝 ノ 口 / 脇 戸 / 矢津田上 矢津田下 / 杉 田 上 / 杉 田 下 中 杉 田 / 赤 馬 場 / 新 町 上 町 / 本 町 / 下 町 荒 倉 / 平 / 動 目 木 手 形 野 / 志 賀 瀬 / 高 花 長 迫 / 鬼 淵 / 陣 内 波居原下	南小国町役場 及び 南小国町役場 庁舎別館	第1分団 1部・2部 3部・4部 機動分団 第3分団 1部・10部	2-D-4

避難対象地区	指定緊急避難場所	担当消防団	MAP番号
和 田 / 瓜 上 / 中原住宅 米 山 / 米 山 上 / 落 見 梶 の 本 / 地 蔵 原 / 松 の 木 坂 の 下 / 田 尻 / 陣 の 前 平 瀬 / 湯 田 上 / 湯 田 下 古 賀 / 矢 田 原 / 中 湯 田 樋 の 口	元気プラザ中原 及び 中原小学校	第2分団 1部・2部 3部1班 3部2班 3部3班 4部	6-B-2 6-B-1
志 津 / 立 岩 / 志 童 子 扇 / 星 和 / 永 山 薊 原 / 矢 ヶ 部 / 小 原 吉 原 / 小 田 / 白 川 黒 川 / 瀬 の 本 / 大 谷 山 田 の 原	りんどうヶ丘 小学校	第3分団 2部・3部 4部・5部 6部・7部 8部・9部	7-E-2



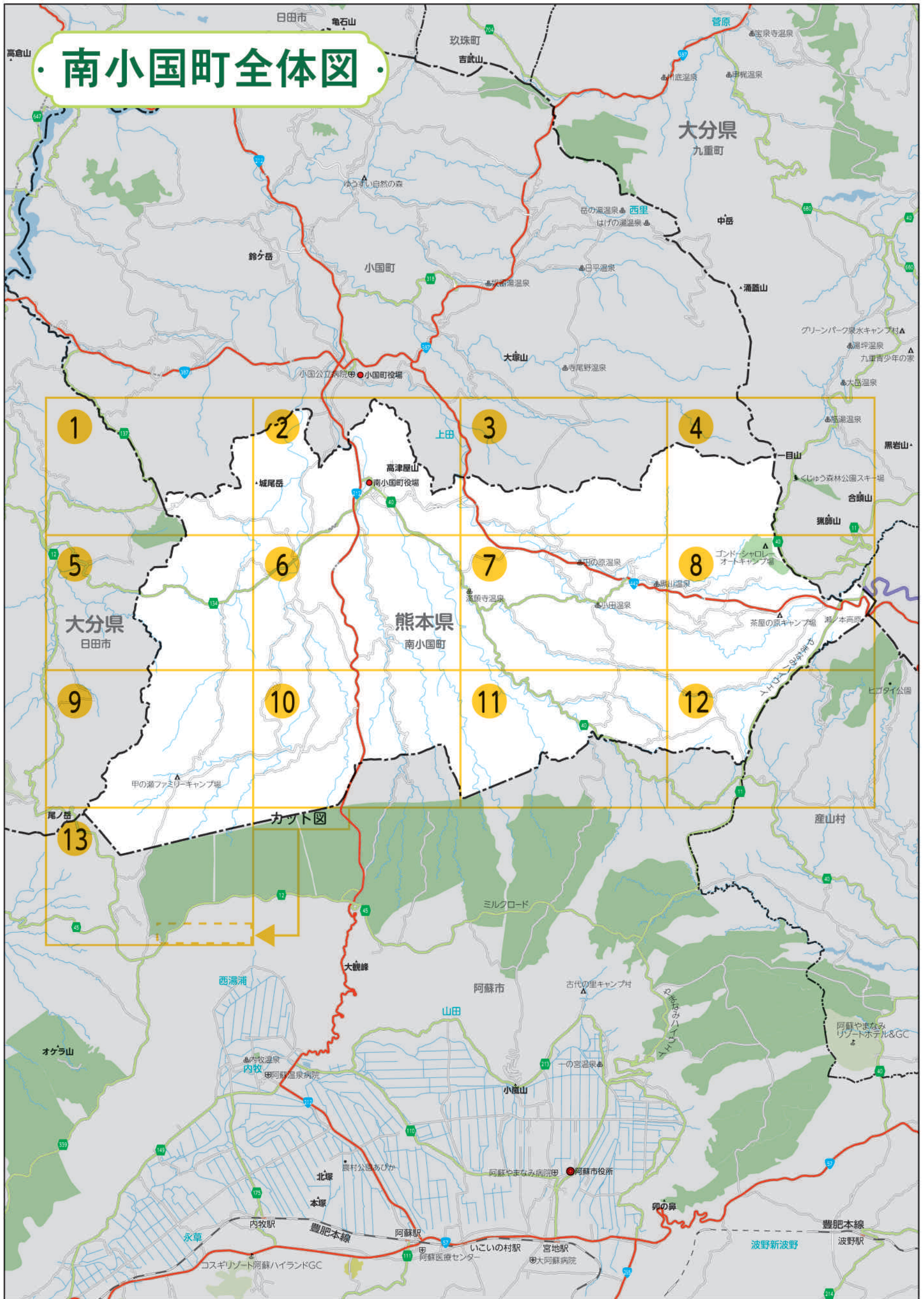
福祉避難所

高齢者・障がい者・妊産婦・乳幼児・病弱者等、一般的な避難所では生活に支障を来す人たちのために、何らかの特別な配慮がされた避難所で、必要に応じて開設されます。

福祉避難所	MAP番号
りんどう荘	2-D-5
悠清苑	7-D-3

福祉避難所	MAP番号
サポートセンター悠愛	2-C-1
おぐに老人保健施設	小国町宮原

※上記の情報は、発行日現在の情報であり、修正となる可能性があります。最新の情報は、役場までお問い合わせください。
※福祉避難所のりんどう荘は、災害ボランティアセンターの設置等により、利用できない場合があります。



南小国町全体図

MAP 1

凡例		指定避難所
		指定緊急避難場所
		福祉避難所
		要配慮者利用施設

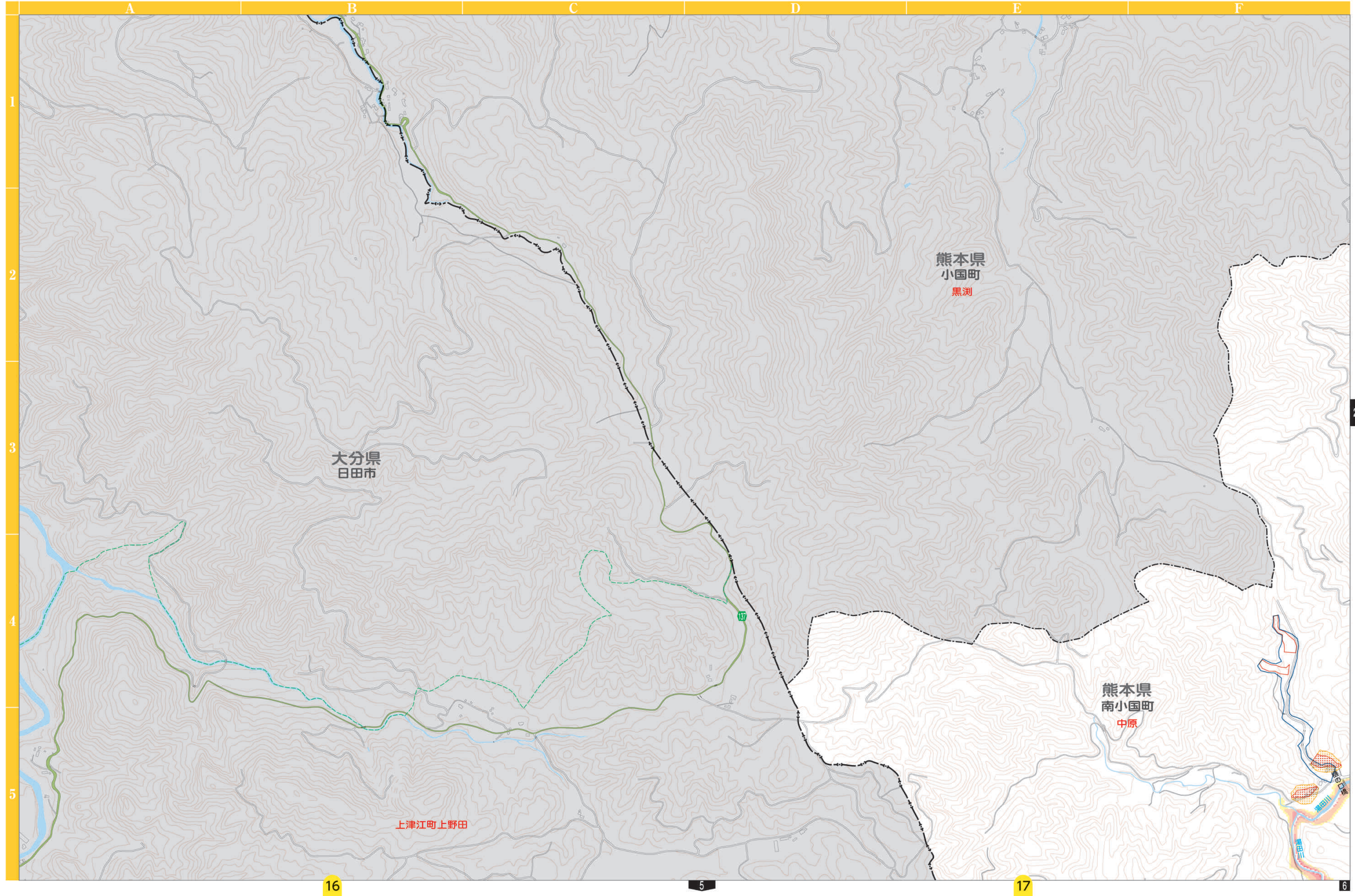
凡例		役場		神社		河川カメラ
		警察署		寺院		雨量計
		郵便局		病院		
		学校		ガソリンスタンド		
		ヘリポート		水位計		

土砂災害凡例		土石流・特別警戒区域
		土石流・警戒区域
		急傾斜地の崩壊・特別警戒区域
		急傾斜地の崩壊・警戒区域
		警戒区域・地すべり

想定最大規模浸水深		0.5m 未満の区域
		0.5m ~ 3.0m 未満の区域
		3.0m ~ 5.0m 未満の区域
		5.0m ~ 10.0m 未満の区域
		10.0m ~ 20.0m 未満の区域

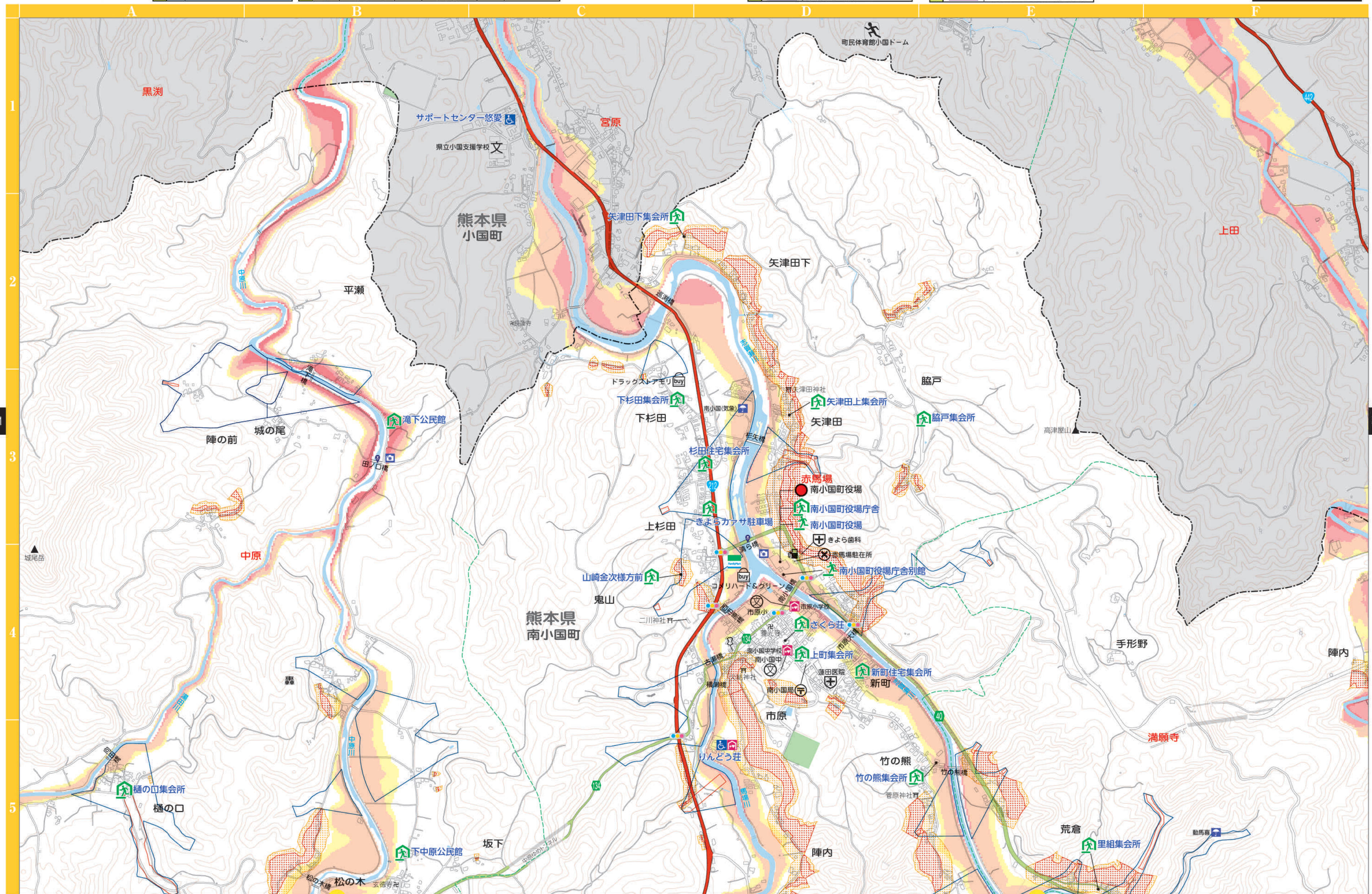
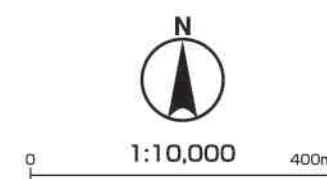

N

0 1:10,000 400m



凡 例		役場		神社		河川カメラ
		警察署		寺院		雨量計
		郵便局		病院		
		学校		ガソリンスタンド		
		ヘリポート		水位計		

想定最大規模浸水深		0.5m 未満の区域
		0.5m ～ 3.0m 未満の区域
		3.0m ～ 5.0m 未満の区域
		5.0m ～ 10.0m 未満の区域
		10.0m ～ 20.0m 未満の区域

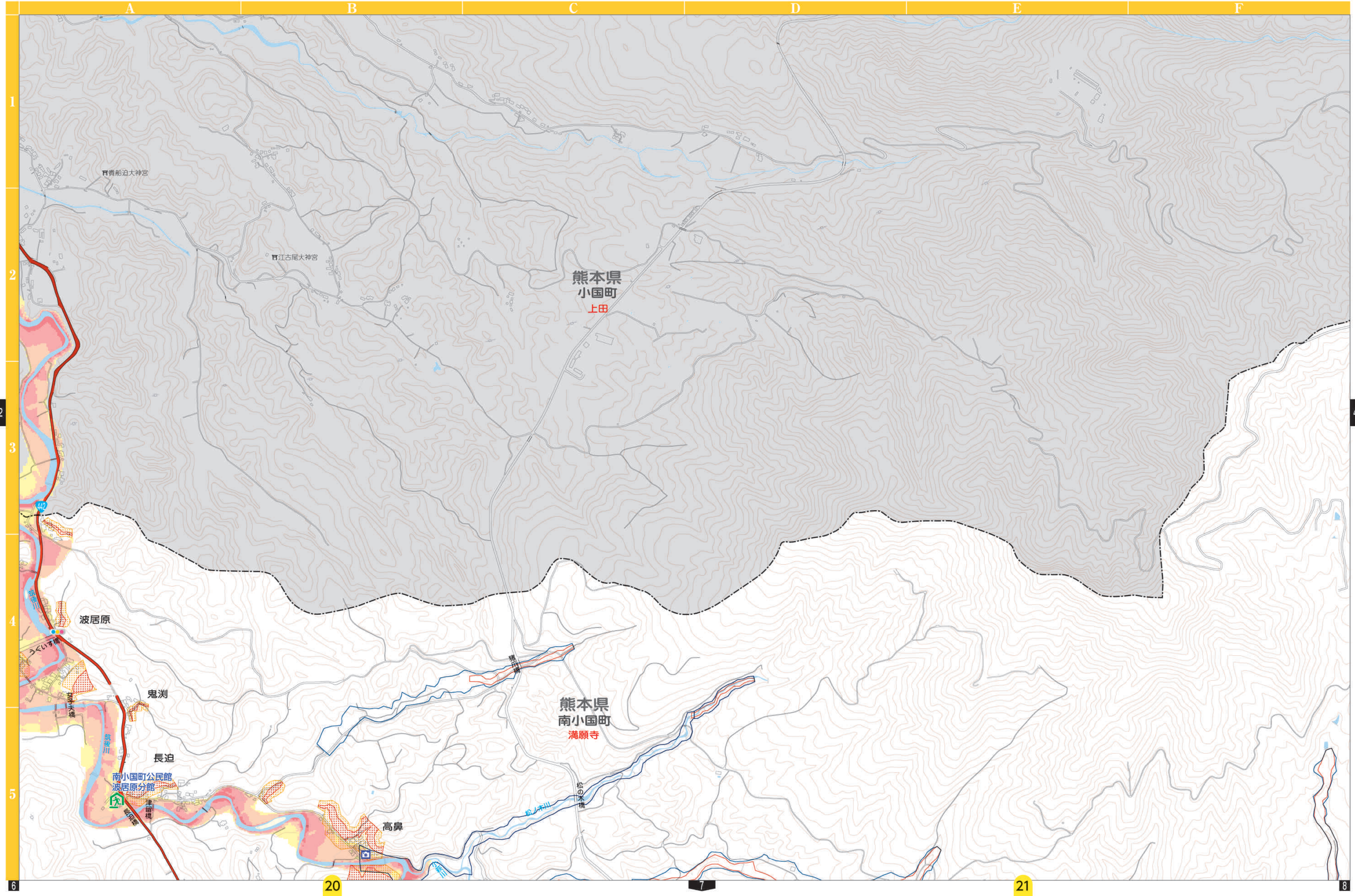


凡例		指定避難所
		指定緊急避難場所
		福祉避難所
		要配慮者利用施設

凡例		役場		神社		河川カメラ
		警察署		寺院		雨量計
		郵便局		病院		
		学校		ガソリンスタンド		
		ヘリポート		水位計		

土砂災害凡例		土石流・特別警戒区域
		土石流・警戒区域
		急傾斜地の崩壊・特別警戒区域
		急傾斜地の崩壊・警戒区域
		警戒区域・地すべり

想定最大規模浸水深		0.5m 未満の区域
		0.5m ~ 3.0m 未満の区域
		3.0m ~ 5.0m 未満の区域
		5.0m ~ 10.0m 未満の区域
		10.0m ~ 20.0m 未満の区域



MAP 4

凡例		指定避難所
		指定緊急避難場所
		福祉避難所
		要配慮者利用施設

凡例		役場		神社		河川カメラ
		警察署		寺院		雨量計
		郵便局		病院		
		学校		ガソリンスタンド		
		ヘリポート		水位計		

土砂災害凡例		土石流・特別警戒区域
		土石流・警戒区域
		急傾斜地の崩壊・特別警戒区域
		急傾斜地の崩壊・警戒区域
		警戒区域・地すべり

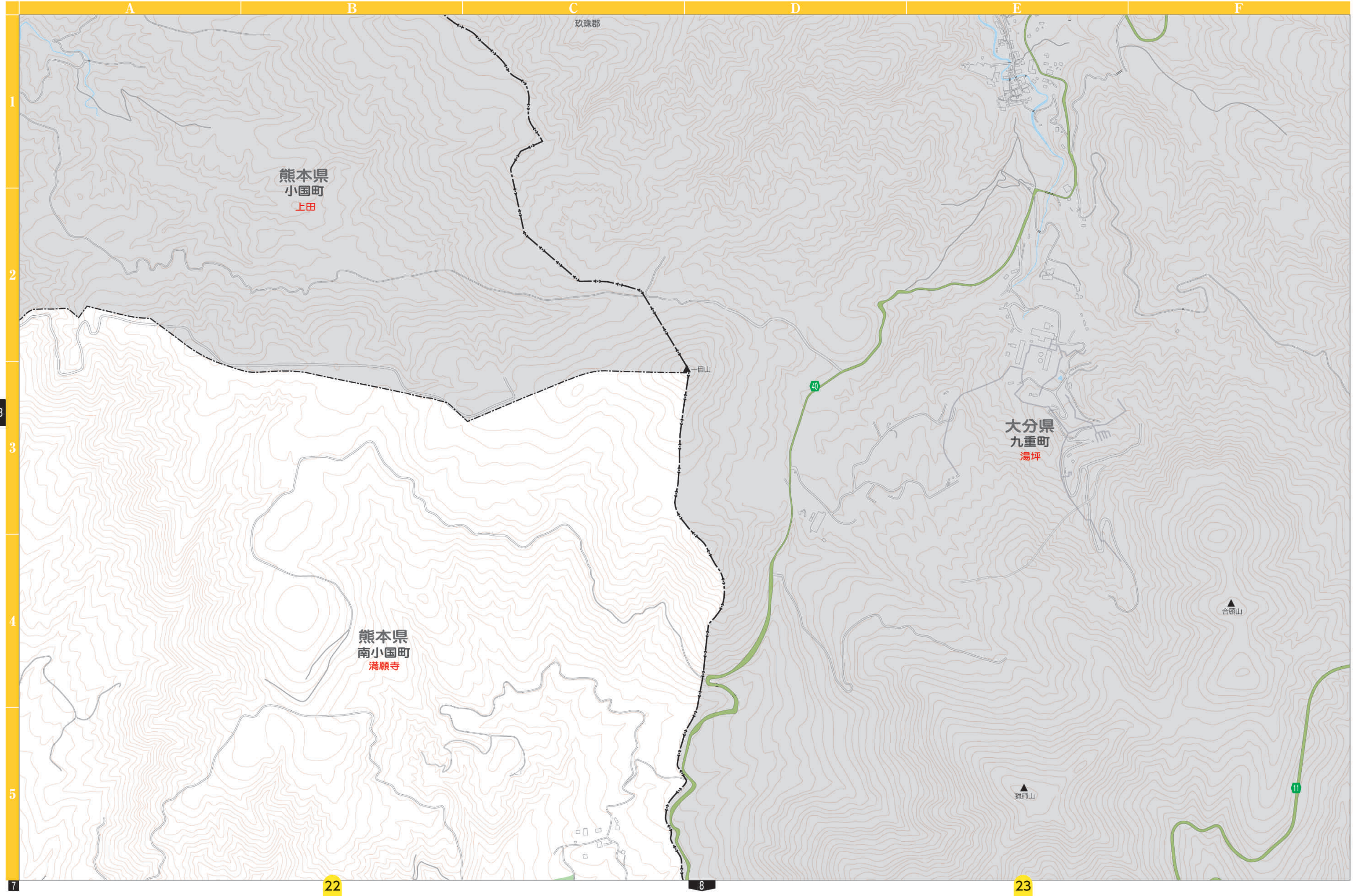
想定最大規模浸水深		0.5m 未満の区域
		0.5m ~ 3.0m 未満の区域
		3.0m ~ 5.0m 未満の区域
		5.0m ~ 10.0m 未満の区域
		10.0m ~ 20.0m 未満の区域

N

0

1:10,000

400m

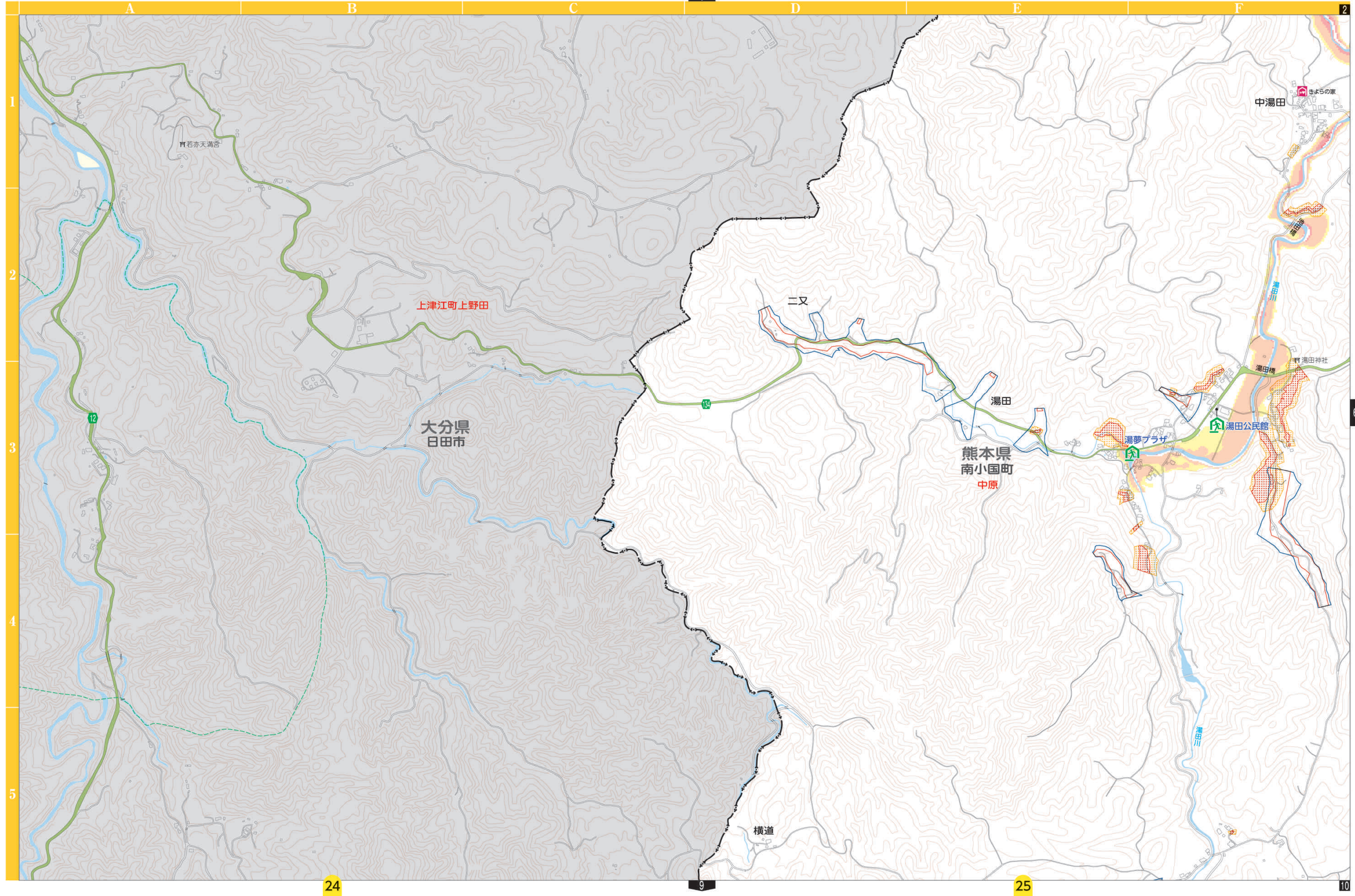


凡例		指定避難所
		指定緊急避難場所
		福祉避難所
		要配慮者利用施設

凡例		役場		神社		河川カメラ
		警察署		寺院		雨量計
		郵便局		病院		
		学校		ガソリンスタンド		
		ヘリポート		水位計		

土砂災害凡例		土石流・特別警戒区域
		土石流・警戒区域
		急傾斜地の崩壊・特別警戒区域
		急傾斜地の崩壊・警戒区域
		警戒区域・地すべり

想定最大規模浸水深		0.5m 未満の区域
		0.5m ~ 3.0m 未満の区域
		3.0m ~ 5.0m 未満の区域
		5.0m ~ 10.0m 未満の区域
		10.0m ~ 20.0m 未満の区域



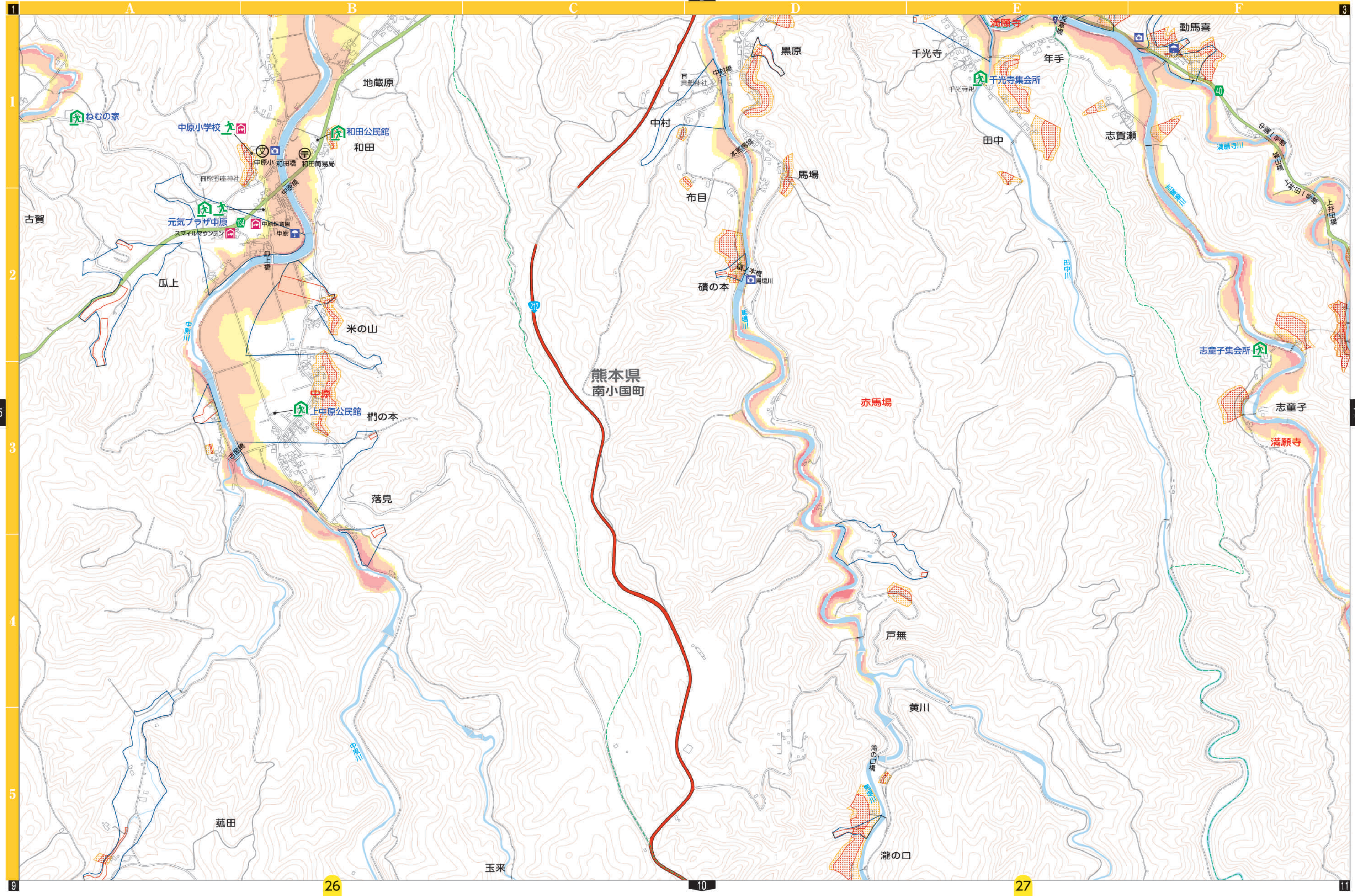
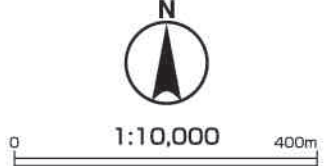
MAP 6

凡例		指定避難所
		指定緊急避難場所
		福祉避難所
		要配慮者利用施設

凡例		役場		神社		河川カメラ
		警察署		寺院		雨量計
		郵便局		病院		
		学校		ガソリンスタンド		
		ヘリポート		水位計		

土砂災害凡例		土石流・特別警戒区域
		土石流・警戒区域
		急傾斜地の崩壊・特別警戒区域
		急傾斜地の崩壊・警戒区域
		警戒区域・地すべり

想定最大規模浸水深		0.5m未満の区域
		0.5m～3.0m未満の区域
		3.0m～5.0m未満の区域
		5.0m～10.0m未満の区域
		10.0m～20.0m未満の区域

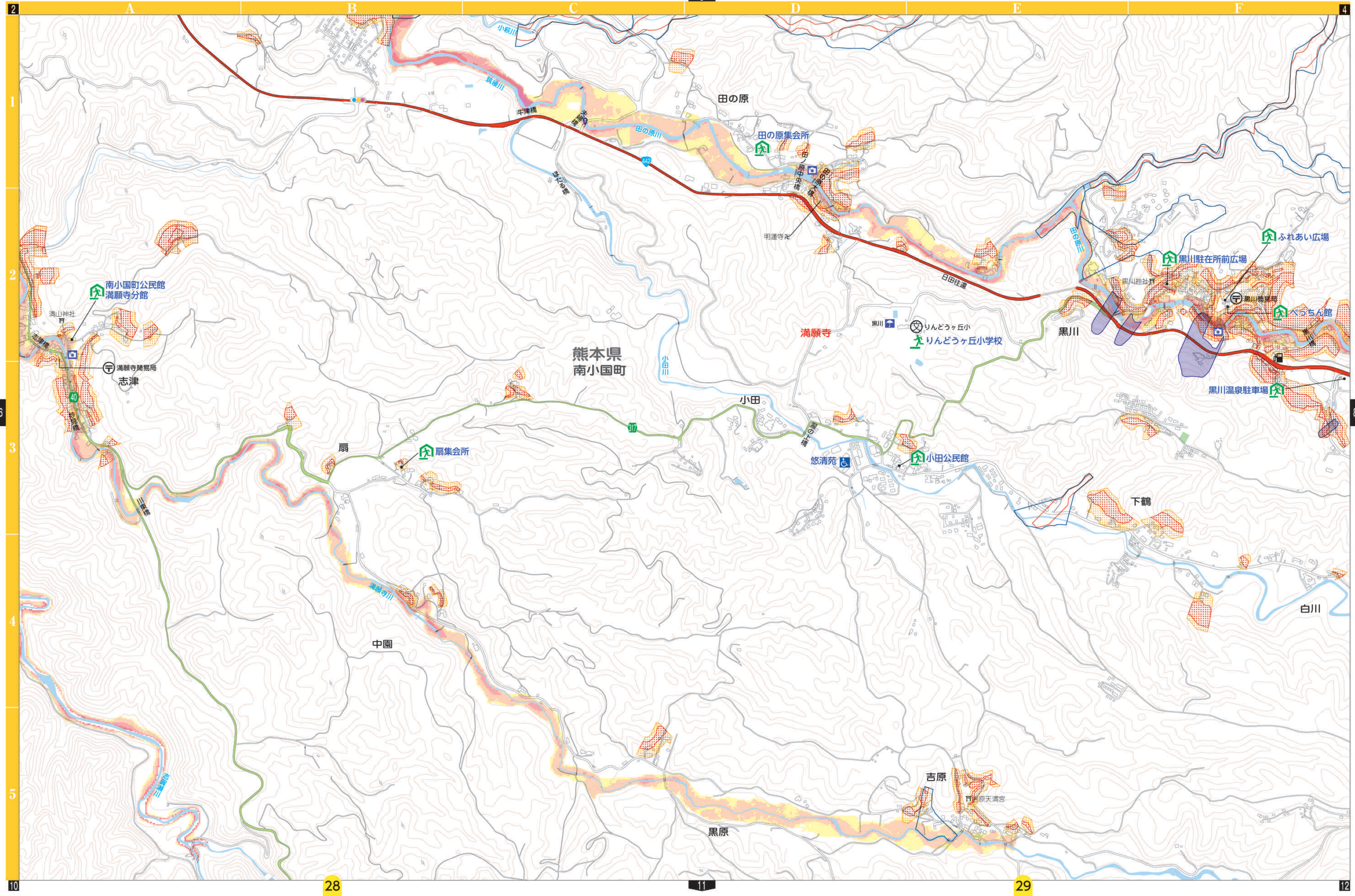


凡例		指定避難所
		指定緊急避難場所
		福祉避難所
		要配慮者利用施設

凡例		役場		神社		河川カメラ
		警察署		寺院		雨量計
		郵便局		病院		
		学校		ガソリンスタンド		
		ヘリポート		水位計		

土砂災害凡例		土石流・特別警戒区域
		土石流・警戒区域
		急傾斜地の崩壊・特別警戒区域
		急傾斜地の崩壊・警戒区域
		警戒区域・地すべり

想定最大規模浸水深		0.5m 未満の区域
		0.5m～3.0m 未満の区域
		3.0m～5.0m 未満の区域
		5.0m～10.0m 未満の区域
		10.0m～20.0m 未満の区域



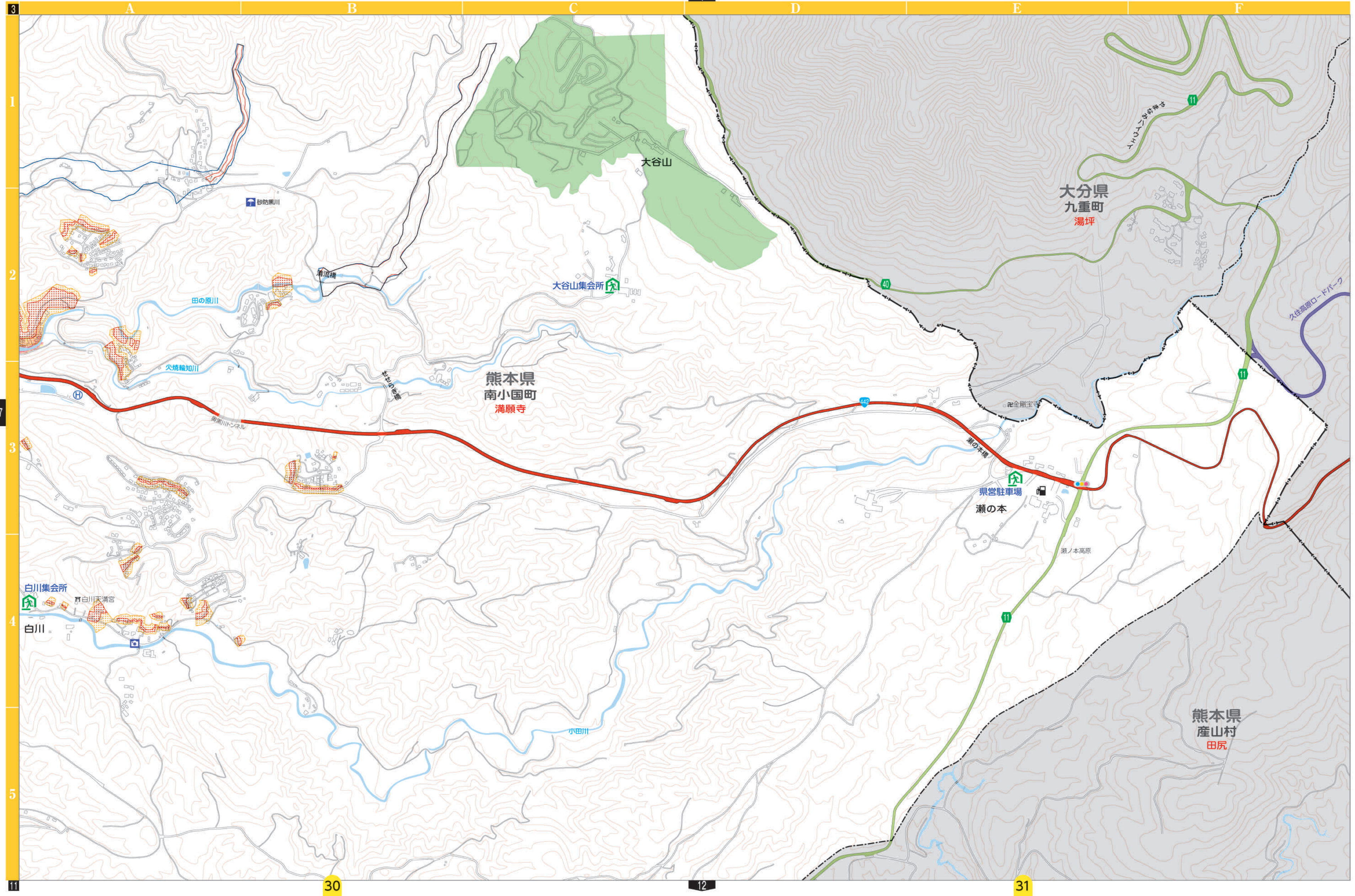
MAP 8

凡例		指定避難所
		指定緊急避難場所
		福祉避難所
		要配慮者利用施設

凡例		役場		神社		河川カメラ
		警察署		寺院		雨量計
		郵便局		病院		
		学校		ガソリンスタンド		
		ヘリポート		水位計		

土砂災害凡例		土石流・特別警戒区域
		土石流・警戒区域
		急傾斜地の崩壊・特別警戒区域
		急傾斜地の崩壊・警戒区域
		警戒区域・地すべり

想定最大規模浸水深		0.5m 未満の区域
		0.5m～3.0m 未満の区域
		3.0m～5.0m 未満の区域
		5.0m～10.0m 未満の区域
		10.0m～20.0m 未満の区域

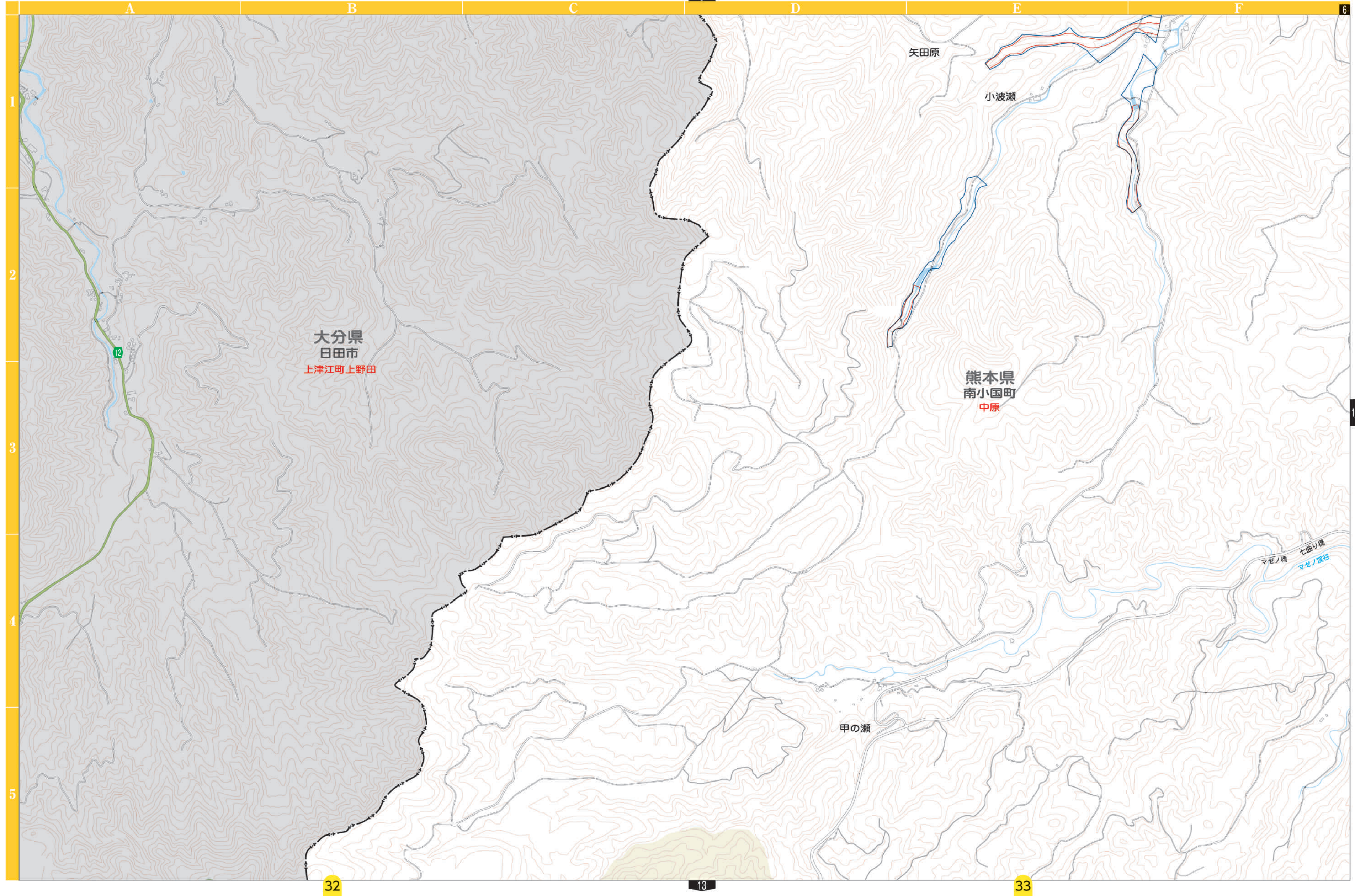


凡例		指定避難所
		指定緊急避難場所
		福祉避難所
		要配慮者利用施設

凡例		役場		神社		河川カメラ
		警察署		寺院		雨量計
		郵便局		病院		
		学校		ガソリンスタンド		
		ヘリポート		水位計		

土砂災害凡例		土石流・特別警戒区域
		土石流・警戒区域
		急傾斜地の崩壊・特別警戒区域
		急傾斜地の崩壊・警戒区域
		警戒区域・地すべり

想定最大規模浸水深		0.5m 未満の区域
		0.5m～3.0m 未満の区域
		3.0m～5.0m 未満の区域
		5.0m～10.0m 未満の区域
		10.0m～20.0m 未満の区域

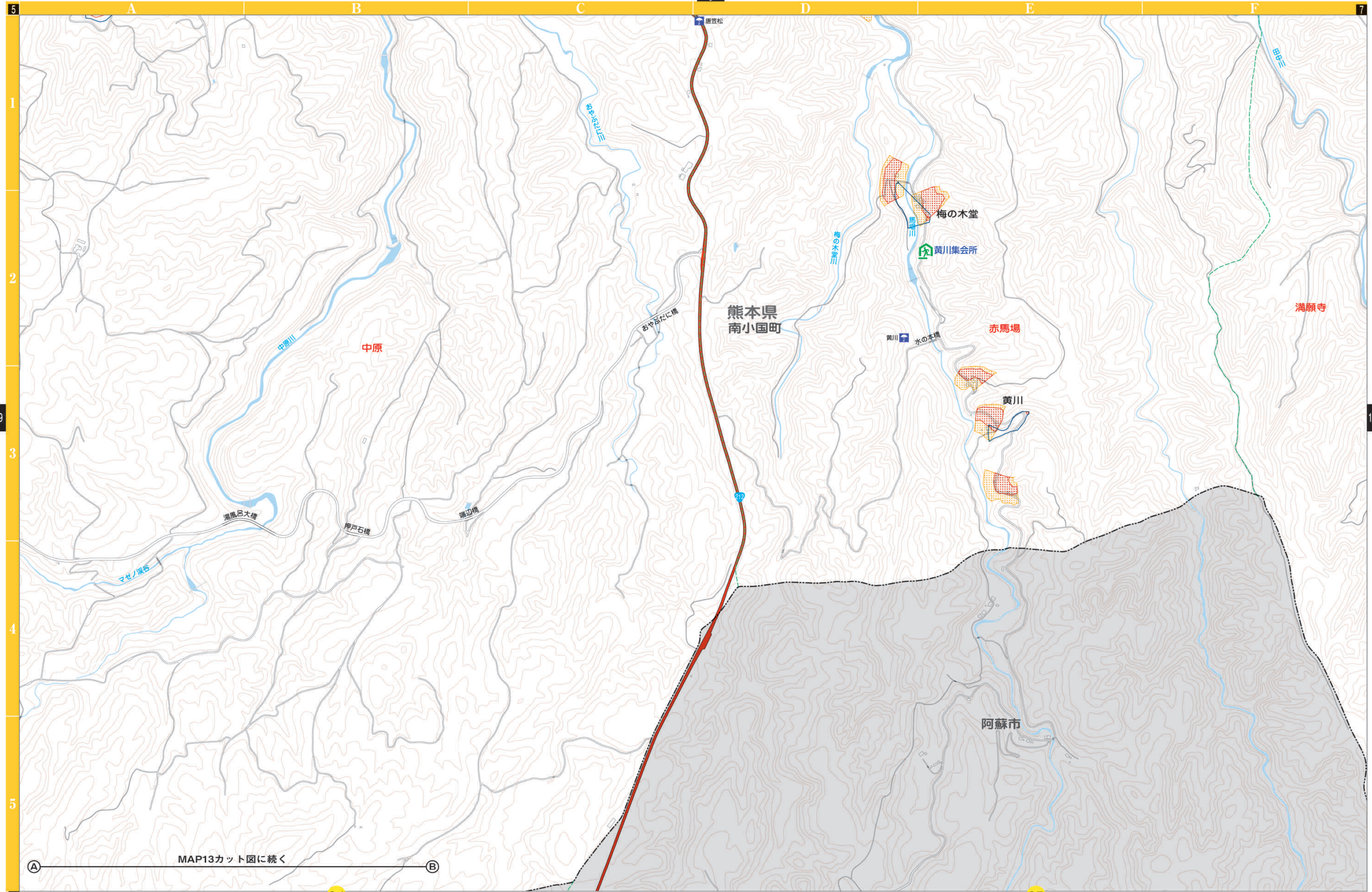


凡例		指定避難所
		指定緊急避難場所
		福祉避難所
		要配慮者利用施設

凡例		役場		神社		河川カメラ
		警察署		寺院		雨量計
		郵便局		病院		
		学校		ガソリンスタンド		
		ヘリポート		水位計		

土砂災害凡例		土石流・特別警戒区域
		土石流・警戒区域
		急傾斜地の崩壊・特別警戒区域
		急傾斜地の崩壊・警戒区域
		警戒区域・地すべり

想定最大規模浸水深		0.5m 未満の区域
		0.5m ~ 3.0m 未満の区域
		3.0m ~ 5.0m 未満の区域
		5.0m ~ 10.0m 未満の区域
		10.0m ~ 20.0m 未満の区域



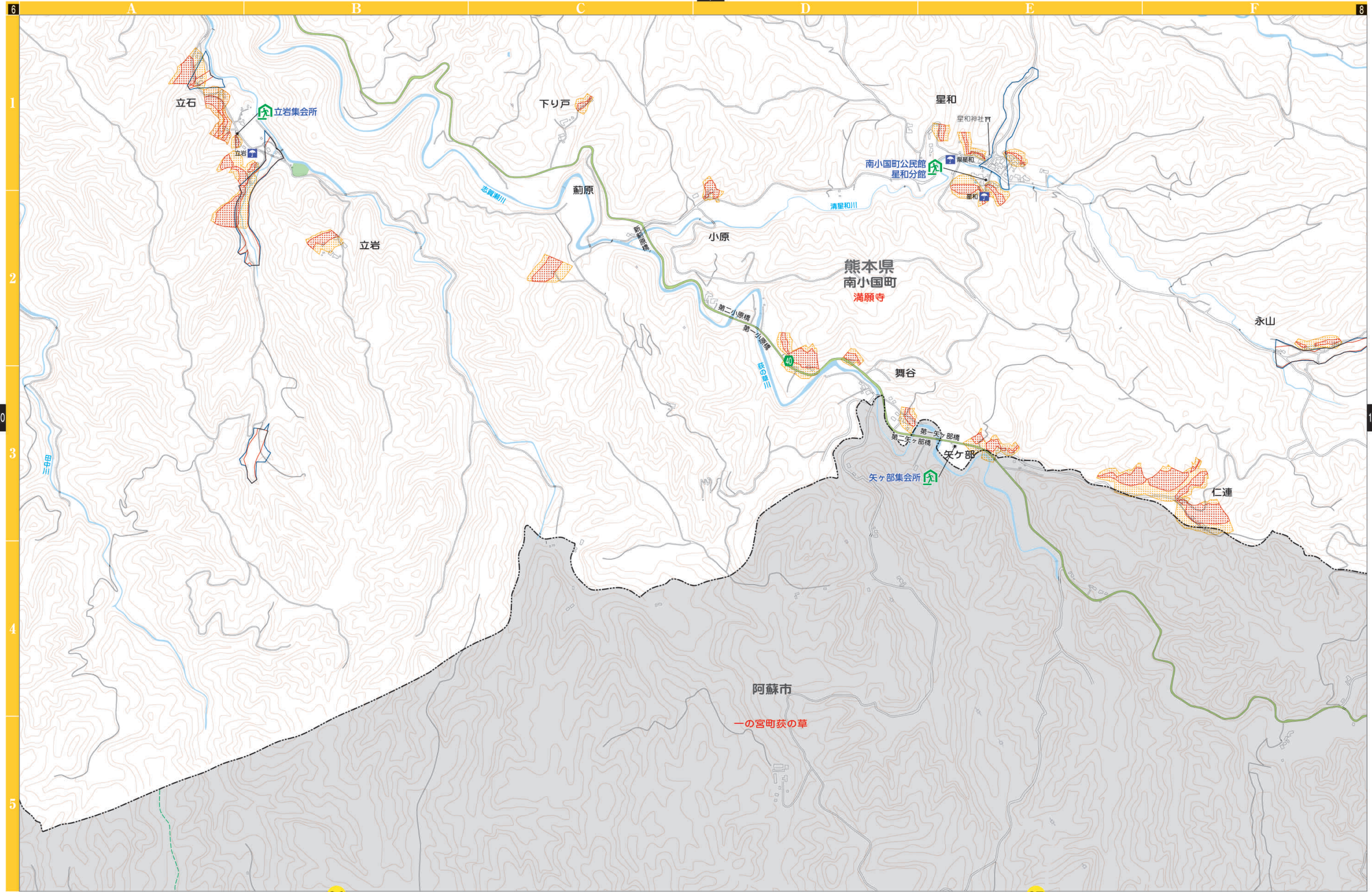
MAP13カット図に続く

凡例		指定避難所
		指定緊急避難場所
		福祉避難所
		要配慮者利用施設

凡例		役場		神社		河川カメラ
		警察署		寺院		雨量計
		郵便局		病院		
		学校		ガソリンスタンド		
		ヘリポート		水位計		

土砂災害凡例		土石流・特別警戒区域
		土石流・警戒区域
		急傾斜地の崩壊・特別警戒区域
		急傾斜地の崩壊・警戒区域
		警戒区域・地すべり

想定最大規模浸水深		0.5m 未満の区域
		0.5m～3.0m 未満の区域
		3.0m～5.0m 未満の区域
		5.0m～10.0m 未満の区域
		10.0m～20.0m 未満の区域



凡例		指定避難所
		指定緊急避難場所
		福祉避難所
		要配慮者利用施設

凡例		役場		神社		河川カメラ
		警察署		寺院		雨量計
		郵便局		病院		
		学校		ガソリンスタンド		
		ヘリポート		水位計		

土砂災害凡例		土石流・特別警戒区域
		土石流・警戒区域
		急傾斜地の崩壊・特別警戒区域
		急傾斜地の崩壊・警戒区域
		警戒区域・地すべり

想定最大規模浸水深		0.5m 未満の区域
		0.5m ~ 3.0m 未満の区域
		3.0m ~ 5.0m 未満の区域
		5.0m ~ 10.0m 未満の区域
		10.0m ~ 20.0m 未満の区域

